

第 19 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明「NEW!!」

構造デザイン部門 募集要項

【テーマ：新たなつながり～ふたつでひとつ～】

【課題概要】 有明大会では、呉大会と同様、『紙』を用いた橋をテーマとします。本大会では、ケント紙、接着剤を用いて、紙自体が持つ強さやしなやかさ、軽さなどの特性を最大限に引き出す「耐荷性」、「軽量性」、「デザイン性」に富む橋を製作してください。本大会では、新しいつながりをつくる橋として、分割された 2 つの橋をスパン中央でつなぎ、1 つの橋をつくるという新しいカタチの橋をテーマとします。合理性に基づき導かれたカタチとともに、創造性にあふれデザイン性に富む構造を期待します。

1. 競技内容

所与の支点間隔で支持される橋を作製し、耐荷性、軽量性、デザイン性、創造性等を競う。

(1) 審査方法

- ① 競技得点 競技得点は、集中荷重載荷による載荷点 50 点、軽量点 30 点の合計 80 点満点とする。
- ② 審査員評価点 審査員評価点は 20 点満点とし、作品の設計趣旨、構造、デザイン性等について、作品およびプレゼンテーションポスターの評価により審査を行う。なお、本大会では作品の着色に関する評価は行わない。

上記、①および②の合計点より得点順位を得る。なお、同点の場合は、軽量点が高い方を上位とする。

(2) 設計および製作条件

① 構造形式

- ・ 水平スパン長 800mm (これまでの 900mm から変更：詳細は載荷装置の図を参照) で、分割された 2 つの橋をスパン中央付近にて乾式で、かつ、2 つの橋以外の部品等 (例えば、くさびや込み栓等) を用いずに繋ぎ、1 つの橋となる 2 点支持形式の橋とする。また、2 つに繋ぐ作業も競技の設置時間に含めるため、容易になくことができる橋とする。
- ・ 乾式による継手部分および重なりは、橋梁のスパン中央から±100mm 内に納めるようにする。また、2 つの分割された橋は、一方の橋が重なり部分を超えて製作することはできない。

② 使用材料

使用可能な材料は、紙と木工用ボンドとする。紙は表 1 に示す商品に限る。同等品の使用は不可とする。木工用ボンドは、主成分が酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形で、表 2 に示す商品に限る。

表 1 使用可能なケント紙の例

	メーカー・品名・型番	秤量(g/m ²)	紙厚(mm)	サイズ
1	コクヨ・高級ケント紙・セ-KP18	157	0.19	A3
2	コクヨ・高級ケント紙・セ-KP28	210	0.22	A3
3	菅公工業・ケント紙・ベ 063	157	0.19	A3
4	muse・KMK ケント断裁品#200・8切	180		8切

表 2 使用可能な接着剤の種類

	メーカー	製品名
1	コニシ	木工用 CH18
2	セメダイン	木工用 605

③ 部材の加工・接着

紙を任意形状に切ったり、折ったり、よじったり、丸めたりしてもよい。一度溶かすなど使用材料の原形をとどめないような使い方はしない。紙同士をボンドで接着してもよい。複数枚の紙をボンドで貼り合わせてもよい。ただし、単に紙自体の強度を増すなど、接着以外の目的で含浸処理を施さないこと。NC 工作機やレーザー加工機などによる自動切断・マーキングなどの加工も可能とする。

④ 印刷・着色

紙および作製物への着色およびプリントは行わない。

⑤ 支持条件

- ・ 作品を載せることができる支持部は、二箇所、断面が 100×100mm の木材の角材である。また、水平スパン長 800mm で、載荷台の寸法誤差±1mm に対応できるようにする。
- ・ 図 1 および図 3 に示す支点 Ra および支点 Rb の支持条件は、水平方向の移動が固定された支持である。作品を載荷台に設置する際に製作物が支点と接することができるのは、図 3 に示す両面支持部の水平方向 100mm、鉛直方向 25mm 以内のみとする。

⑥ 載荷条件

作品への載荷は 2 点集中荷重とする。図 1 に示す作品上面のスパン中央から左右それぞれ 125mm の位置である Sa 点および Sb 点に載荷治具を同じ高さの位置に置き、載荷治具の他端同士を Sc 点で 22φ の丸鋼を通し、その両端にナットを取り付ける。

なお、載荷治具（Sa 点、Sb 点）は、作品の上面で位置あれば、作製限界内に入っても構わない。また、Sa 点および Sb 点の高さは、同じ高さとするが、作製誤差による高さのずれについては許容するものとする。ただし、作品の変形によって、Sa および Sb にある載荷治具の丸鋼が左右にずれることがないように、左右へのズレ止め機構（例えば、丸鋼が収まるくぼみ等）を施すようにする。ズレ止め機構の条件については、図 9 に示すものとする。載荷点 Sa および Sb を繋ぐ載荷治具を構造材として利用することはできないこととする。

Sc 点を通す丸鋼の中央には、載荷ワイヤー（鎖、もしくは、鎖状のもの）が掛けられる吊りピースが付いている。この吊りピースと載荷ワイヤーを結合することにより荷重を載荷する。なお、載荷ワイヤーを吊りピースに結合する際は、おもり受けと防振マットの距離を約 50～100mm を確保することとする。

(3) 競技方法

① 仕様確認

仕様確認では、作品の質量・橋長の計測のほか、以下の項目について検査を行う。

- ・ 2 つの分割された橋を 1 つに繋いで、作品が製作限界内に収まっているか。製作限界確認用ケース内に作品が収まっていること確認する。
- ・ 使用材料が規定と相違はないか。
- ・ 橋梁のスパン中央からの重なり部分が±100mm（合計 200mm）以内かを確認する。

② 作品の質量計測

大会当日の計量にはエー・アンド・デイ製 EK-4100i（秤量 4kg、最小表示 0.1g）を使用する。

③ 審査員による審査

- ・ 作品の設計趣旨、構造、デザイン性等について、作品およびプレゼンテーションポスターの評価により審査を行う。その際、「作品の構造的合理性」、「作品の独自性」、「プレゼンテーションポスター」が評価のポイントになる。「プレゼンテーション（発表）」については、現段階で実施しない方向であるが、プレゼンテーションを行う場合は、プレゼンテーションも評価のポイントになる。これについては 10 月中に正式決定後、改めて案内する。

④ セッティング荷重

載荷治具、スプリングフック、載荷ワイヤー、おもり受け等の総質量約 8kg がセッティング荷重として作用するが、このセッティング荷重は耐荷荷重には含めない。

⑤ 耐荷性能試験

耐荷性能試験の登壇者は、各チーム 3 名以内とする。登壇者は、ヘルメット、ゴーグル、軍手、安全靴を着用し、長袖、長ズボンの服装であることとする。なお、ヘルメット、ゴーグル、軍手については、主催者側で用意するが、安全靴は各高専で準備すること。以下、(a)～(d)に載荷性能試験の詳細を示す。

(a) 載荷順

競技は、3 台もしくは 4 台の載荷装置を用い、3 組もしくは 4 組同時に載荷試験を実施する。載荷順については、原則として質量の重い順とする。なお、同一高専で 2 つまで応募できる実施体制で競技を行う場合（「3. 応募資格」に記載）、大会 1 日目も載荷試験を行う予定である。この場合、同一高専で 2 作品を応募した高専の 2 作品のうち質量の重い橋を 1 日目に載荷試験することになる。

(b) 載荷装置への設置

作品を載荷台に設置する際は、「設置開始」の合図から 90 秒以内に設置し、載荷治具の設置を完了した時点で、手を挙げて競技審判に設置完了の合図をすること。なお、合図があつてから 2 つの橋を 1 つにつなぐこととし、合図までは橋は分かれた状態にしておくこととする。つまり、2 つの橋を容易につなぐことができる構法的な工夫も重要となる。時間内に設置が完了しない場合は、得点に 0.9 を乗じた値を競技得点とする。合図から 180 秒を超えた場合は、得点に 0.7 を乗じた値とする。設置完了後、競技審判が「支持条件」および「載荷条件」を満足しているかを確認する。なお、「2. ⑥載荷条件」に記載した「吊りピースと載荷ワイヤーの結合」については、この設置時間に含めず、設置完了後に審判員の確認の元、登壇者が結合を行う。

(c) 載荷方法

初期荷重は 10kg とし、50kg まで載荷を行う。40kg までは、10kg 刻み、40kg 以降は 5kg 刻みで載荷を行う。各載荷段階において、載荷後 10 秒間の耐荷状態の確認を行った後、次の載荷を行う。なお、耐荷状態とは、おもり受けが防振マットに接していない状態のこととする。おもり受けが防振マットに接した場合、作品に破断が生じていなくても「崩壊」しているものとみなして競技を終了する。また、図 9 に示すようにズレ止め機構の載荷治具 Sa 点および Sb 点の丸鋼が載荷試験中に作品内に 11mm を超えて入った場合は「崩壊」とみなして競技を終了する。

(d) 競技得点

- ・ 載荷点：耐荷荷重の kg 数を点数とする（満点 50 点）。
- ・ 軽量点：満点 30 点とし、軽量順で 1 位のチームに 30 点を与える。2 位以降については、1 位のチームの質量をチームの質量で除して、それに 30 点を掛けた点数を与える。（例えば、1 位のチームの質量が A、2 位のチームの質量が B である場合、 $(A/B) \times 30$ で計算した値を 2 位のチームの点数とする。3 位以下も同様の計算を行って点数を決める。）なお、作品を載荷装置にセットし、かつ、吊りピースと載荷ワイヤーの結合までを行い、(c) 載荷方法（耐荷性能試験）に入る前に耐荷状態でなくなった場合は軽量点の対象としない。

2. 応募方法等

Web による手続きとする。

(1) 募集要項に対する質疑

- ① 受付期間：2022年4月26日（火）～5月10日（火）17:00
- ② 質問方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）の構造デザイン部門の「質疑受付」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 回答公開：5月下旬～6月上旬に、デザコン 2022 in 有明公式ホームページの構造デザイン部門の「質疑応答」にて、回答の内容を公開する。あわせて、募集要項の更新も随時公式ホームページ上にて行う。

(2) エントリー手続き

- ① 受付期間：2022年10月24日（月）～10月31日（月）17:00
- ② 応募方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの構造デザイン部門の「エントリー」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 受領確認：エントリーの受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。
- ④ エントリーリストの公開：

2022年11月2日（水）にデザコン 2022 in 有明 公式ホームページ上にリストを公開する。
エントリーしたチームはエントリーリストを必ず確認し、エントリー受付漏れがあった場合は2022年11月4日（金）17:00 までに下記メールアドレスに連絡すること。2022年11月4日（金）17:00 以降のエントリー訂正等は受け付けないので注意する。なお、エントリーの確認をもって、「全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明 構造デザイン部門」への出場権を得たものとする。

有明工業高等専門学校 構造デザイン部門事務局 e-mail ; dc-22koso@ga.ariake-nct.ac.jp

(3) 本選への参加

本選は2022年12月10日（土）および11日（日）に実施する。本選の詳細「本選出場要項等」に関しては、10月中旬にデザコン 2022 in 有明公式ホームページにて公開する。参加チームは、① プレゼンテーションポスター、② 作品を大会当日に持参すること。

- ① プレゼンテーションポスター：
 - ・ A2 サイズ（横向き）で作成し、大会当日の受付後に指定箇所に掲示する。
 - ・ プレゼンテーションポスターには、学校名、作品名、コンセプト、模型の写真、アピールポイントを記載すること。
- ② 作品：
 - ・ 作品は原則大会当日に持参することとするが、宅配を希望する場合は後日公開する手続き方法に従うこと。

(4) プレゼンテーションポスターデータの事前提出

- ① 提出期間：2022年11月22日（火）～11月29日（火）17:00
- ② 提出方法：プレゼンテーションポスターデータの提出方法等の詳細は、本選出場要項に記載する。

(5) 参加費

- ・ 参加費は、1 チーム当たり 8,000 円とする。
- ・ 参加費は、2022 年 11 月 7 日（月）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 振り込み者名は、「高専名の略称、空白、担当者名」とすること。

例) センダイナトリ アオバタロウ

例) アリアケ オオムタケンジ

- ・ 振り込まれた参加費について、いかなる場合においても返金には応じない。

【振込口座】

銀行名：福岡銀行
支店名：大牟田支店（店番：691）
口座種別：普通預金
口座番号：3447067
口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション
学生課長 江崎 浩
ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション
ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ

3. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生及び専攻科生とする。
- (2) チームは個人もしくは 6 名以内のグループで構成する。ただし、同一高専で 2 つの作品（2 チーム）を応募する場合、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、また、宿泊場所確保の観点から、大会への参加者数を 3 名以内とする。
つまり、構造デザイン部門では、各高専 1 チーム参加、2 チーム参加のいずれの場合も、大会参加者数は各高専 6 名以内となる。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一人物が他部門も含め複数のチームに参加することは認めない。
- (5) 応募作品は各チーム 1 つとして、かつ、同一高専で 2 つまで応募できる。ただし、同じ高専で同形および同一コンセプトの作品は認めない。

4. 審査員

委員長：中澤祥二（豊橋技術科学大学 教授）
委員：岩崎英治（長岡技術科学大学 教授）
委員：森下博之（国土交通省 九州地方整備局 企画部長）

5. 表彰

- (1) 最優秀賞（国土交通大臣賞）1 点
- (2) 優秀賞 2 点
- (3) 審査委員特別賞 2 点

※ (3)の審査委員特別賞 2点については、耐荷性能試験を全てクリア (50 点を獲得) した作品のみを対象とし、審査委員の独自の観点で選定を行う。

6. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。 オフィシャルブックには応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。

7. 付記

- (1) プレゼンテーションポスターの作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現にすること。
- (2) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても主催者は一切責任を持たない。
- (3) 応募要項に違反した場合は失格となる場合がある。

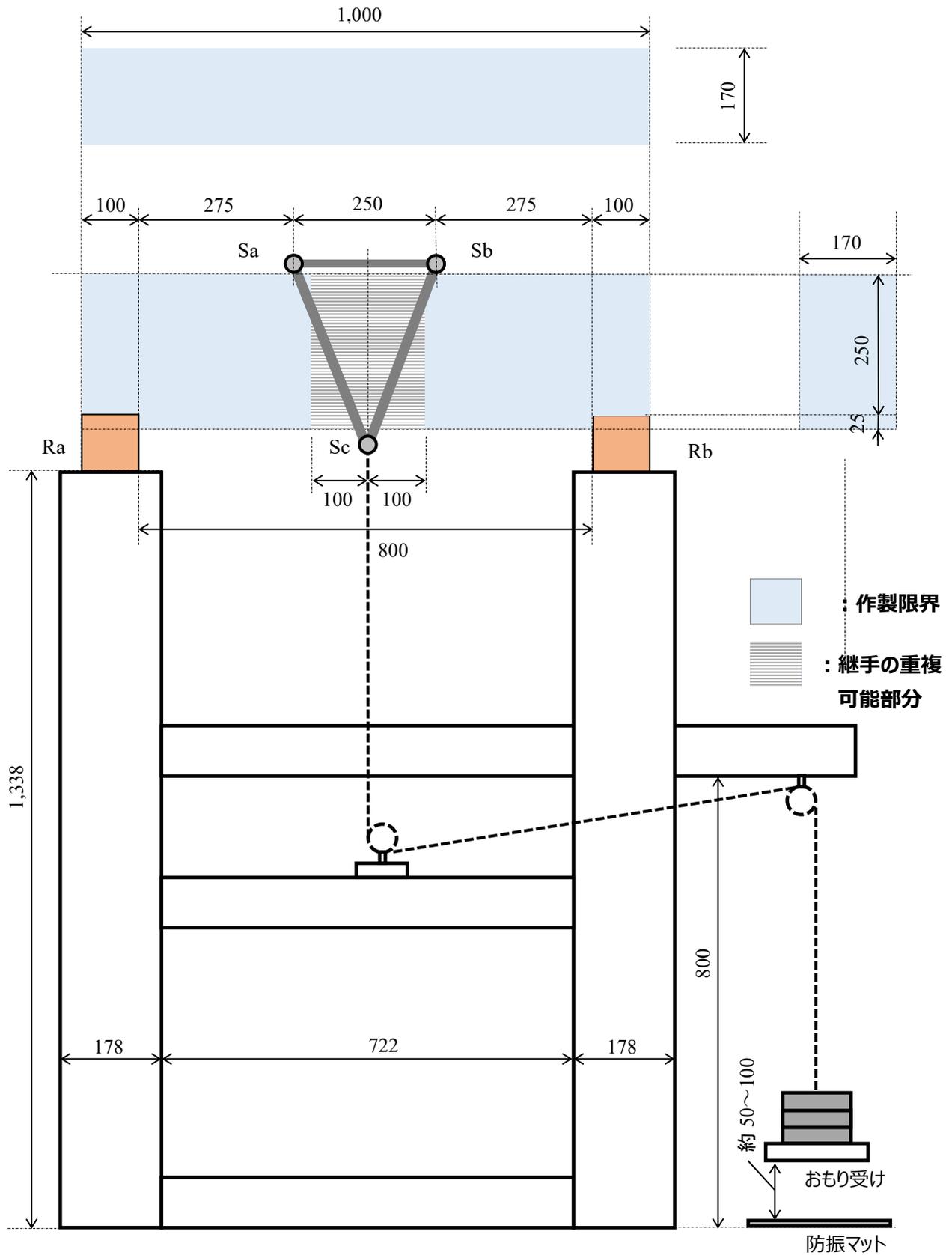


図 1 载荷装置と製作限界立面図 [S = 1/10] 単位 : mm

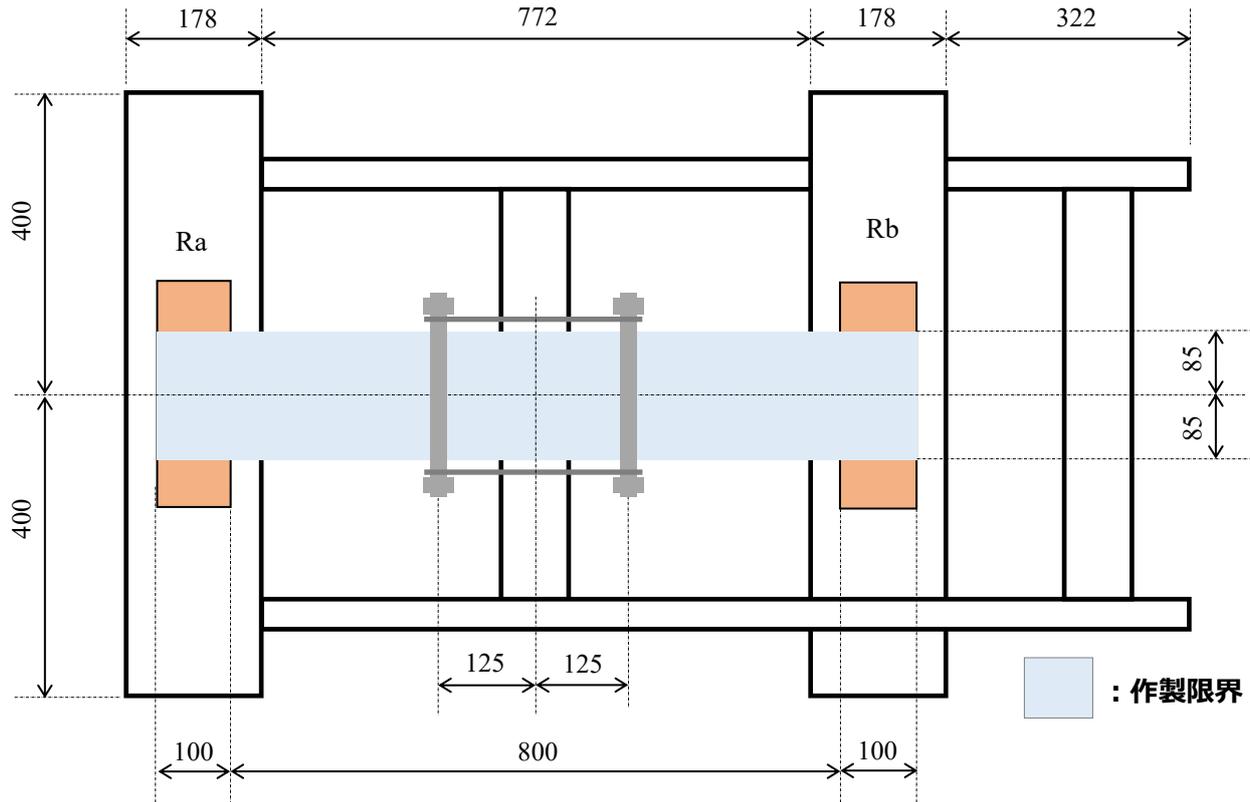


図2 载荷装置と製作限界平面図 [S=1/10]

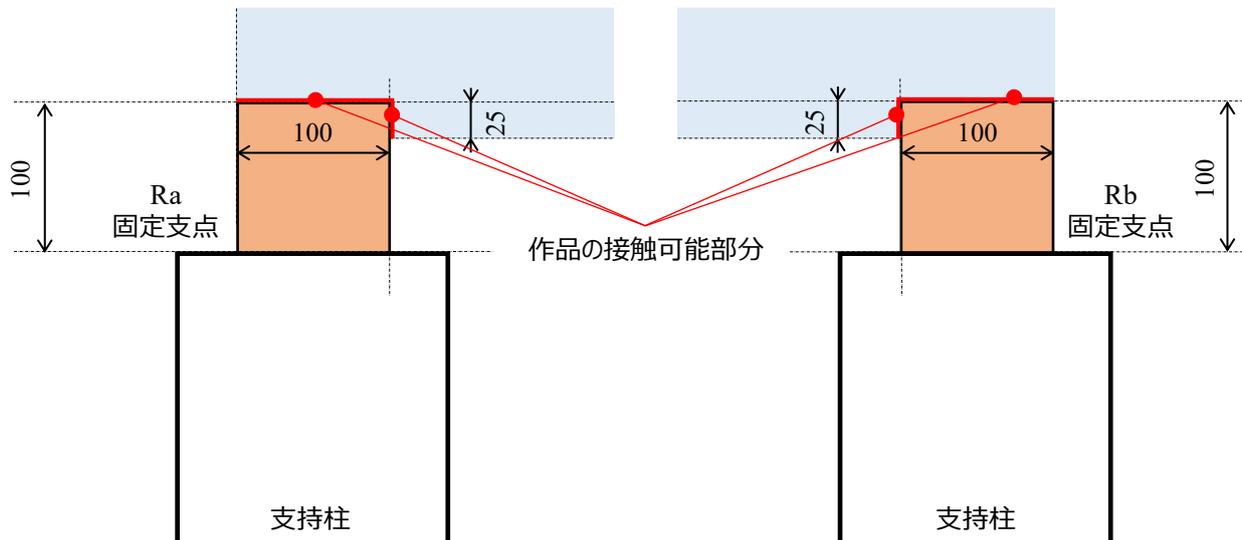


図3 Ra, Rb 支点付近詳細図 [S=1/5]

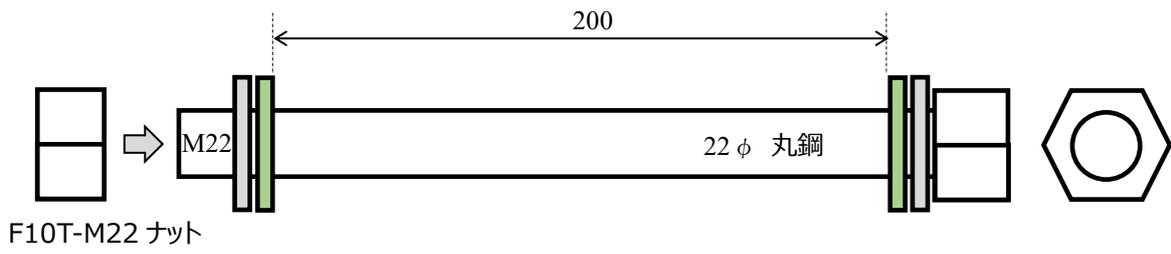


図 4 Sa, Sb ピン支承丸鋼

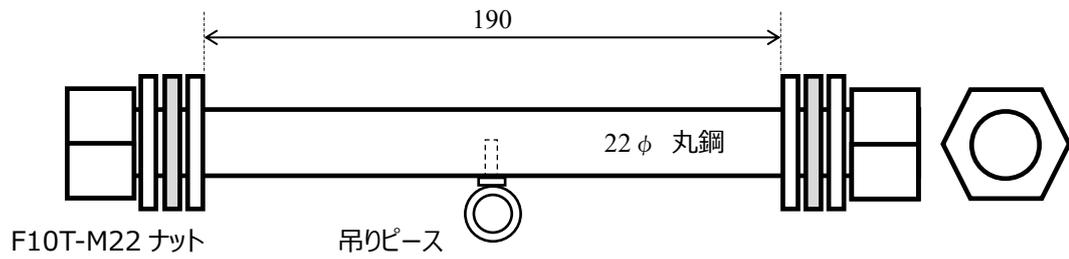


図 5 Sc ピン支承丸鋼

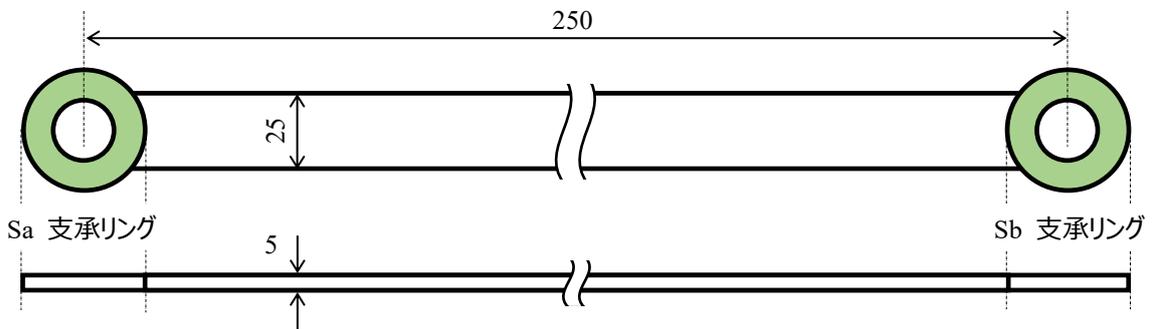


図 6 Sa - Sb 载荷治具

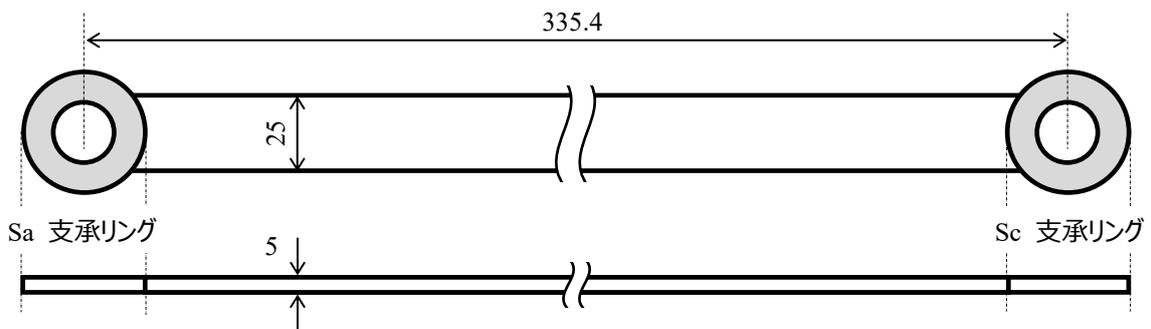


図 7 Sa - Sc 载荷治具

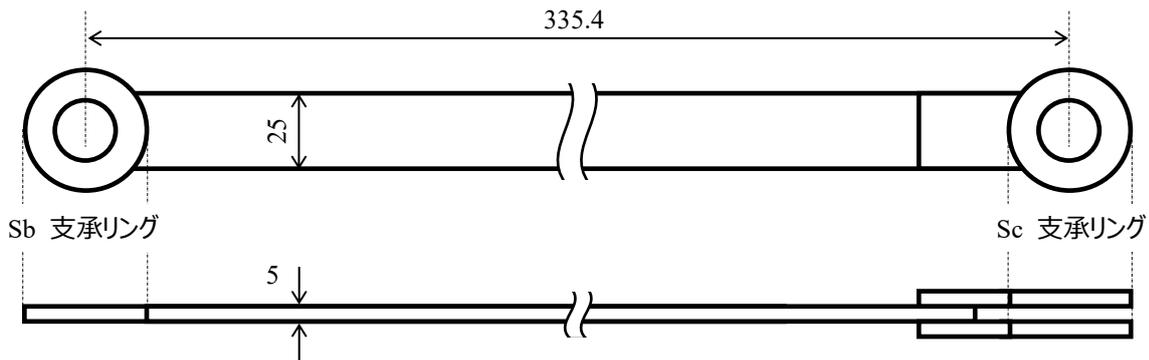


図 8 Sb - Sc 载荷治具

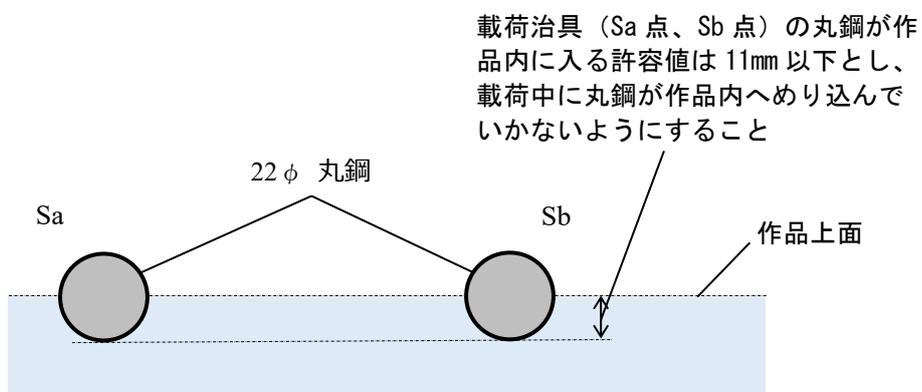


図 9 载荷治具のズレ止め機構の条件

構造デザイン部門

☆質疑に対する回答

No.	質問校	質問	回答
1	米子高専	設置開始の時点で載荷治具は Sa, Sb, Sc がつながっているか否か。また、90 秒以内に設置完了しなかった場合に 0.9 倍掛けするとありますが、対象となるのは載荷点のみか載荷点と軽量点の合計のどちらか。	作品の設置開始時点では、載荷治具は Sa および Sb がつながっている状態となっています。競技得点は、載荷点と軽量点の合計点となります。載荷装置への設置で「時間内に設置が完了しない場合は、この得点に 0.9 を乗じた値が競技得点となります。
2	松江高専	「乾式」の定義を明文化していただけないでしょうか。	P1 の構造形式にある乾式とは、載荷台での設置において木工ボンドを利用しない接合形式を意味します。
3	松江高専	作品と固定支点が接するのは点でなければならないのでしょうか。	作品と固定支点は P8 に示す接触可能部分であれば面での接触も問題ありません。
4	松江高専	作品と固定支点が接するのが点でなければならない場合、接触可能部分の接する 4 点はどこでも良いのでしょうか。また、設置する作品の設置点の変形はどれくらいまで許容されるのでしょうか。	回答 3 を参照。 設置点において作品の変形により接触可能部分以外に作品が接触した場合、「崩壊」とみなします。
5	有明高専	Sa と Sb までを支持部分から直線でつなぐことで、橋の中央部分に部品を設ける必要がなくなりますが、中央部分に部品は必要ですか。また、Sa と Sb を繋ぐ載荷治具を構造材として利用していいですか。	本課題は「新たなつながり～ふたつでひとつ」がテーマとなっており、ふたつの橋が中央部分でのつながること、そのつながりを工夫することを求めています。そのため、橋中央部部分で継手をつくることで橋を構成してください。載荷点 Sa と Sb を繋ぐ載荷治具を構造材として利用することはできません。
6	秋田高専	2つの橋を「つなぐ」の定義とは。それぞれの橋の面が接触していればいいということでしょうか。	2つの橋を「つなぐ」の定義は、募集要項 P1 の構造形式の説明の通りです。それぞれの橋が規定の範囲で接触していれば問題ありません。作品の接触の領域（面、線、点）には規定はありません。ただし、回答 5 は踏まえてください。
7	呉高専	P2 1. 競技内容 (2) 設計及び製作条件①構造形式で「2 つの橋以外の部品等（例えば、くさびや込み栓等）を用いずに繋ぎ、1 つの橋となる 2 点支持形式の橋とする。」とあるが、2 つの橋にくさびや込み栓のような部品を橋につなげておき、橋の設置時にそれらの部品を用いて橋を繋げることは可能か。	2 つの橋を繋ぐ時に、くさびや込み栓のようなものが「ほぞ」として、どちらかの橋と一体化している形式であれば、橋を繋ぐことは可能です。
8	呉高専	P2 1. 競技内容 (2) 設計及び製作条件⑥載荷条件で「載荷治具は作品の上面で位置あれば、製作限界に入っても構わない」	P2⑥載荷条件に「Sa および Sb にある載荷治具の丸鋼が左右にずれることがないように、左右へのズレ止

		とあるが、規定の載荷治具の条件と実際設置する載荷治具の鉛直方向のずれはどれだけ許容されるのか。また、載荷治具より高い位置に橋の部材が存在することは許されるのか。	め機構（例えば、丸鋼が収まるくぼみ等）を施す」 作品の上面に載荷治具が設置でき、載荷が可能であれば、「鉛直方向のずれ」は問題になりません。 また、丸鋼（載荷治具）の直径が 22mm です。ズレ止め機構として、丸鋼はこの半分の 11mm まで作品内に入ることを許容することとします。（図 1 参照）言い換えると、作品の最高高さは、丸鋼の中心より高い位置に作品は存在できません。載荷試験中も同様です。もし、丸鋼が載荷試験中に作品内に 11mm を超えて入った場合は「崩壊」とみなします。募集要項に加筆します。
9	呉高専	P3 1. 競技内容 (3) 競技方法⑤耐荷性能試験 (a) 載荷順で「同一高専で 2 作品を応募した高専の 2 作品のうち質量の重い橋を 1 日目に載荷試験」とあるが、会場内で同一高専の応募した 2 作品が軽量順から 1 位、2 位であった場合も質量の重い作品を 1 日目に試験を行うのか。	同一高専で応募した 2 作品が軽量順から 1 位、2 位であった場合も質量の重い作品を 1 日目に試験を実施します。同一高専 2 チームが同一日に載荷試験することはありません。
10	呉高専	P3 1. 競技内容 (3) 競技方法⑤耐荷性能試験 (b) 載荷装置への設置で「時間内に設置が完了しない場合は、得点に 0.9 を乗じた値を競技得点とする。」とあるが、ここでの「得点」を示すのはどの得点のことか。	得点は、載荷点と軽量点の合計点となります。
11	呉高専	載荷装置の設置の際、踏み台持ち込み使用してもよいか。	載荷装置における作品の設置の際に踏み台の持ち込みは可能です。
12	呉高専	P7 図 1 載荷装置と制作限界立面図 [S=1/10] で、Sa 点 (Sb 点) から Sc 点までの高さ方向の距離はいくらか。また、載荷治具の寸法は小数点以下第一位まで示してあるが、実物の誤差はどのくらいか。	Sa 点および Sb 点の丸鋼の最下部から Sc 点の丸鋼の最上部の高さ方向の距離は約 290mm となっています。載荷治具の寸法と実物の誤差は ±1mm 治まっています。
13	舞鶴高専	要項 P1 (2) 構造形式の「一方の橋が重なるの部分を超えて製作することはできない」とある重なるの部分とは、継手部分のことなのか、それとも ±100mm のことなのか。	要項 P1 (2) 構造形式の「一方の橋が重なるの部分を超えて製作することはできない」とある重なるの部分とは、スパン中央から ±100mm のことを指しています。 例えば、左側部分の橋は、中央から右に 100mm のとこまで製作することができます。従って、左側と右側の 2 つの橋の最大の重なりは 200mm となります。
14	舞鶴高専	丸鋼 (Sa 点、Sb 点) を構造モデルの中に埋め込む形は、載荷条件に適しているのか。	回答 8 を参照してください。
15	舞鶴高専	図 1 のワイヤーの長さを具体的に明記していただけることは可能か。	載荷ワイヤーの長さは、載荷重り受けと防振マットの間が 50~100mm 程度は確保するように各チームで調整してもらおう形を考えています。

16	福井高専	「分割された 2 つの橋」と「乾式の継手」の 3 つの構造体によって構成された橋を製作する課題と考えられますが、継手部を部品ではなく複数の構造体（例えば上弦材継手と下弦材継手）としてもよろしいのでしょうか。	課題は、分割された 2 つの橋をスパン中央付近で繋いで 1 つの橋とする作品を作製することになるので、構造体は 2 つとなります。それ以外の構造体や部品等は認められません。
17	福井高専	「分割された 2 つの橋」と「乾式の継手」の 3 つの構造体によって構成された橋を製作する課題と考えられますが、継手部を H 形鋼の片側ウェブプレートとボルトが一体化した板のようなものとしてもよろしいのでしょうか。(分割した橋の継手側に穴がり、継手のボルトがはまる形式)	回答 16 を参照してください。その上で、要項に記載されている要件を満足できれば、穴に「ほぞ」のようなものを差し込む形式でも構いません。
18	東京都立産業技術品川キャンパス	中央スパンの繋ぎ部分の繋ぎ方は紙を引っ掛けるような方法でも良いのか	作品を繋ぐ方法は、乾式で、かつ、2 つの橋以外の部品等を用いずに繋ぐ方法であれば、どのような方法でも構いません。
19	東京都立産業技術品川キャンパス	複数箇所繋ぎ部があってもいいのか	スパン中央である継手部分は複数箇所を繋ぐ形でも構いません。回答 16 も参照してください。
20	東京都立産業技術品川キャンパス	載荷中に結合部が外れた場合はどうなるのか	載荷中に接合部が外れた場合は崩壊とみなします。
21	長野高専	載荷治具は作製限界内に入っても構わないとありますが、設計載荷位置が低くなる場合、重り受けと防振マットが接触してしまうことはありますか。 作品と載荷治具の設置が完了した状態で、重り受けと防振マットの間が 50～100mm 程度必ず確保されるという認識でよいのでしょうか。	載荷位置が低い場合、作品と載荷治具の設置が完了した状態で、載荷ワイヤーの長さを各チームが調整して載荷重り受けと防振マットの間が 50～100mm 程度は確保するようにしてください。

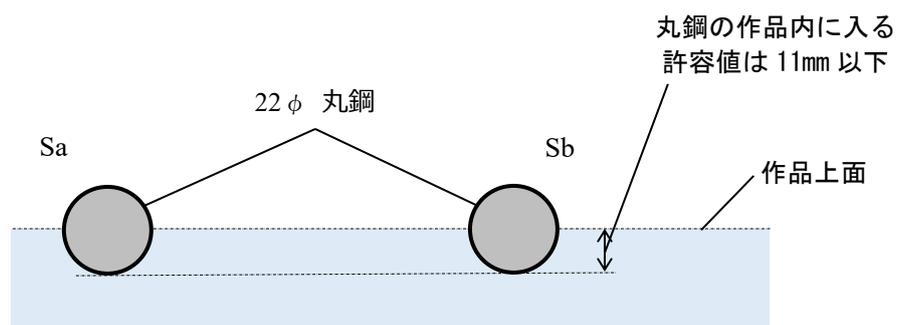


図 1 载荷治具の作品に入る許容値

デザコン 2022 構造デザイン部門 エントリー一覧

作品番号	学校名	作品名・氏名・学年
1	福井高専	波翼 ○田中こころ(5年) 下村成輝(5年) 杉若光(5年) 銅健吾(5年) 南部紗季(5年) 渡辺瑚乃羽(5年)
2	福井高専	剛龍 ○南北城(3年) 保木克也(3年) 高間海友(3年) 大江康二郎(3年) 小谷朝日(3年) 中出咲良(3年)
3	サレジオ高専	ツインブリッジ ○谷本璃(4年) 三木亮輔(4年) 保坂嶺斗(4年) 瀧脇蒼矢(4年)
4	鶴岡高専	紡 ○尾崎日菜里(5年) 吉住咲哉(5年) 渋谷優貴(4年)
5	豊田高専	合掌 ○柴田青澄(専攻科1年) 大沼裕貴(専攻科1年) 青山周平(専攻科1年) 寛優祐(専攻科1年) 近藤永都(専攻科1年) 筒井駿(専攻科1年)
6	阿南高専	凸凹結合台形ラーメン ○南里佳(5年) 国原鈴乃(5年) 美馬好大(4年) 矢野優希(4年)
7	呉高専	双嶺 ○小椋千紗(5年) 樋口彰悟(専攻科2年) 小宇羅由依(5年) 築山綾花(4年) 竹本快未(2年) 吉川諒哉(1年)
8	呉高専	人ツ橋 ○土手淳平(5年) 脇田美礼優(5年) 栗原菜々子(5年) 高田澄海(2年) 松下芽生(専攻科1年)
9	米子高専	火神岳 ○山田果奈(4年) 安藤大智(4年) 佐藤政大(4年) 高橋叶羽(4年) 村岡拓真(4年) 石倉宗弥(5年)
10	石川高専	E.Z.D.08-Rhamen ○黒田みゆき(4年) 紅谷美羽(4年) 泉晴貴(4年) 進藤直人(4年)
11	長岡高専	ツカウチブリッジ ○大塚優樹(5年) 柳澤茉依(5年) 恩田空(5年) 内山草太郎(5年) 加藤尚希(5年)
12	和歌山高専	ふっくら山 ○成瀬翔紀(4年) 寺井梨華(3年) 山崎宇槻(3年) 出口遥香(3年) 藤浦浩司(5年) 河村佳紀(2年)
13	和歌山高専	由良競 ○溝畑圭汰(4年) 白井俊成(3年) 伊賀康将(3年) 西崎 郁馬(3年) NGOR, CHINHOK(5年) 上山春奈(3年)
14	松江高専	アジの開き ○蓮岡慶行(4年) 野田悠斗(5年) 野津秀太(5年) 友國 健晟(3年) 大島康生(3年) 大西成弥(3年)
15	長岡高専	えーフルート ○和田知大(専攻科2年) 星野由(専攻科2年) 中村健人(専攻科2年) 山田悠作(専攻科2年) 古川諒太(専攻科1年)
16	鶴岡高専	鶴橋 ○阿部拓夢(5年) 福定隼也(4年) 佐藤愛斗(4年)
17	都立産業技術高専(品川)	富嶽 ○丸岡昂平(5年) 網野心(5年) 古川愛栞(2年) 金子晃樹(5年)
18	都立産業技術高専(品川)	白夜 ○吉田幸平(5年) 小柳拓也(5年) 松隈道明(5年) 諸富陽大(5年) 横山千華(5年)
19	都城高専	暁雲 ○宗像大樹(専攻科1年) 宇野木瑠那(専攻科1年) 谷口陽菜(専攻科1年) 中野喬一郎(専攻科1年) 深川萌夏(5年)
20	長野高専	空 ○春原太喜(5年) 塩原陸斗(5年) PHONE MYAT KYAW(4年)

21	長野高専	白 ○戸田英寿（5年） 西村俊亮（5年） 齋藤寛樹（5年）
22	仙台高専 （名取）	Simple Dividing Good structure ○小室陽輝（4年） 畠山幸大（4年） 草苅紘平（4年） 木下憲吾（4年） 武田菜々花（4年） 平山航太（4年）
23	新モンゴル高専	団結 ○イスハ ウランジャラガル（4年） エンフトル フレルシヤガイ（4年） ニャムバト ナランバト（4年） エンフフヤン テムーレン（4年） エルデネバト ビルグテイ（4年） ツビシンバヤル ツォグ（4年）
24	新モンゴル高専	アーチャー ○ツォグバヤル トゥグスバヤル（昌成）（5年） ツェグメド ヒシゲスレン（5年） ガンボルド エルヘムバヤル（5年） ガルスレン ツェンデスレン（5年） バトルガ テムーレン（5年） パーサンスレン マンドール（5年）
25	大阪公立 大学高専	オーエン橋 ○那須遥丈（4年） 谷川阿弦（4年） 森田康介（4年）
26	釧路高専	夕鶴 ○佐藤侃音（4年） 本橋幸大（4年） 武田紗奈（3年） 中川 真緒（3年） 渡邊紅音（3年）
27	鹿児島 高専	スレンダー Go ○川口恭兵（5年） 佐藤莞太郎（5年） 吉原侑里（5年） 菊永慧（5年） 荊原久美子（2年）
28	近畿大学 高専	buckle ○竹中陸斗（5年） 山口智也（5年） 山本奨（5年）
29	近畿大学 高専	ラ・ミルフィーユ ○清水穰治（5年） 松永朋己（5年） 藤川誠ノ介（4年）
30	有明高専	flux ○下村麟（5年） 岩屋昂士朗（5年） 泉裕介（5年） 田中美咲（4年） 福澤寧々（3年） 矢野 あさひ（3年）
31	舞鶴高専	継手の濃厚接触 ○下山慶（4年） 稲葉壮希（4年） 石原有佑子（4年） 川村拓海（3年） 平中太郎（2年） 斎藤仁子（2年）
32	モンゴル 科技大 高専	ウニトーノ（ゲル天井屋根） ○ニャムスレン ムングントール（3年） アルタンソル アリウンバット（3年） スルフバータル ポロルエルデネ（3年） ガンホヤグ トォグトゥーンジャルガル（3年） プレヴドルジ マンダフフスレン（2年） オトゴンバヤル ウスフイレードウ イ（2年）
33	モンゴル 科技大 高専	両親（アーウ エージ） ○ツェテンダンバ プレブボルド（4年） オユンジャルガル ハリウナー（3年） シャグダルスレン エルデネホロル（3年） シシルバートル ビルグーテイ（3年） バヤルバット サルナイ（2年） ボルドーエルデネ タミルーエルデネ（2年）
34	香川高専 （高松）	人 ○高橋大樹（2年） 富田慧太（2年） 岩田侑真（2年） 山本陽紀（2年）
35	舞鶴高専	耐えあがれ！ ○井上博之（2年） 日下部元喜（4年） 小山愛加（4年） 吉田千晴（3年） 河瀬絢香（1年） 福井愛美（1年）
36	石川高専	Japanese Mt.Fuji ○浅賀諒和（4年） 久保恭平（4年） 前川天音（4年）
37	群馬高専	崢嶸 ○佐竹海聖（4年） 戸塚嶺登（3年） 田島紗優（3年） 小林光希（3年） 志村美月（1年） 今井和空（1年）
38	津山高専	天の梁 ○岡田拓実（5年） 高岡英明（5年） 高石若葉（4年） 渡邊雪菜（4年）
39	神戸市立 高専	X ○津川桂海羽（2年） 勅使河原豊（3年） 橋本紗羅（1年） 下田莉土（1年）
40	神戸市立 高専	紅葉 ○児玉卓謹（3年） 坂潤哉（3年） 鍛冶川倭（3年） 伊達祐葵（1年） 麻田銀河（1年）
41	米子高専	翡翠 ○田原多喜莉（4年） 中井綾音（4年） 松本遥（4年） 鳥井陽菜（4年） 門脇倅（4年） 谷口萌紘（4年）
42	苫小牧 高専	翼 ○村上拓郎（4年） 濱田理央（1年） 佐藤泰樹（2年） 大沢穂香（3年） 中嶋一心（3年） 林憲伸（4年）

43	秋田高専	合橋 ○田口真治（3年） 菅原琉惺（1年） 小林瞳子（2年）
44	秋田高専	引張橋 ○長谷川絢哉（3年） 齋藤愛菜（3年） 三国屋颯波（2年）
45	明石高専	3.14・・・ ○岡本悠（4年） 久保木直人（4年） 岡本陽大（4年） 加東工（4年） 青田優星（4年） 太田姫梨子（4年）
46	小山高専	糸 ○齋藤さくら（2年） 松坂奏美（2年） 西松花歩（2年）
47	小山高専	翔け橋 ○畑中優志（2年） 刈月碧端（2年）
48	福島高専	深淵 ○吉田里奈（3年） 豊増汰一（4年） 門脇真音（3年） 松本柁音（3年） 宗像彩乃（3年） 大津留優空（1年）
49	徳山高専	一繋 ○元永真菜（4年） 中谷怜奈（3年） 神田菜々美（3年） 廣中隼輝（2年） 有馬佑月希（2年） 下園紗羽（1年）
50	徳山高専	二猫一 ○中村綾花（4年） 内富駿仁（5年） 田中奏（3年） 林美宙（2年） 金子まりも（1年） 中越凜子（1年）
51	岐阜高専	合掌橋 ○久芳友宏（専攻科1年） 後藤優奈（専攻科1年） 佐藤颯良（専攻科1年） 竹中愛翔（専攻科1年） 服部百香（専攻科1年） 松波真之介（専攻科1年）
52	明石高専	ARCH×ARCH ○寺坂拓磨（3年） 松原直己（3年） 渡邊由恭（3年） 梶原礼智（3年） 武田隼（3年） 村上奨（3年）
53	IET モン ゴル高専	KHANA ○ムンフボルド ノムンダリ（4年） バダルチ ツォグトビレグ（4年） ツェレメグ アヌジン（4年） バトバータル バトオリギル（4年） オドサイハン サラル（4年） イクバヤル ウナダル（3年）
54	IET モン ゴル高専	トラス+面材 ○エンフバータル ビヤムバジャルガル（5年） エルベネビレグ ツォルモン（4年） ガンソリグ フラン（4年） ガンガン ツェツェグ マラルマ（4年） ジャムバルドルジ オトゴン（4年） バヤルマグナイ エルヘム（5年）

全国高専デザコン 2022 in 有明 構造デザイン部門 本選出場要項

1. 本選について

(1) 日程

12月10日(土)～12月11日(日)

(2) 参加方法

本選は対面形式を基本とした開催になりました。なお、同一高専で2つの作品(2チーム)を応募する場合、大会への参加者数を3名以内とします。つまり、各高専1チーム参加、2チーム参加のいずれの場合も、大会参加者数は各高専6名以内となります。(オンライン参加になる学校がある場合は別途案内します。)

(3) 本選概要

12月10日(土)

9:30 開場・受付開始

10:00～11:30 仕様確認(オンライン配信なし)

※準備状況により、10:00よりも前に仕様確認を行うこともあります。

11:00～11:30 審査員による作品審査

※審査員が作品を見て回り、作品によって質問をする可能性があるため、作品周りで待機してください。なお、プレゼンテーションはありません。また、仕様確認と時間が重なるので、仕様確認中の作品への配慮を行います。

12:30～13:00 開会式

13:30～14:00 オリエンテーション(载荷試験)

14:00～16:30 载荷試験(オンライン配信あり)

16:30～17:00 技術交流(オンライン配信あり)

※初日の上位作品等のいくつかの作品に作品の工夫点をインタビューしたいと思います。

その後、時間の許す範囲で各高専の作品を見ながら交流をしてもらえればと思っています。

12月11日(日)

9:00～12:30 载荷試験(オンライン配信あり)

13:30～14:00 結果発表・審査員による作品講評(オンライン配信あり)

14:00～15:00 閉会式

2. 審査

(1) 審査方法

- ① 競技得点 競技得点は、集中荷重载荷による载荷点50点、軽量点30点の合計80点満点とする。
- ② 審査員評価点 審査員評価点は20点満点とし、作品の設計趣旨、構造、デザイン性等について、作品およびプレゼンテーションポスターの評価により審査を行う。なお、本大会では作品の着色に関する評価は行わない。

上記、①および②の合計点より得点順位を得る。なお、同点の場合は、軽量点が高い方を上位とする。

(2) 審査委員

委員長：中澤祥二（豊橋技術科学大学 教授）

委員：岩崎英治（長岡技術科学大学 教授）

委員：森下博之（国土交通省 九州地方整備局 企画部長）

(3) 競技方法

① 仕様確認（オンライン配信なし）

仕様確認では、作品の質量および長さの計測のほか、以下の項目について検査を行います。

- ・ 作品を組み立てる前の 2 つのそれぞれの橋が継手部分および重なりが、橋梁のスパン中央から±100mm の範囲内に納まっているか確認します。
- ・ 作品が製作限界内に収まっているか。製作限界確認用木製ケース内に作品が収まっていることで確認します。
- ・ 载荷治具を置くズレ止め機構が作品内に入る深さが 11mm 以内であることを確認する。
- ・ 使用材料が規定と相違はないか。

※仕様確認については、代表学生 1 名の立ち会いの下、実施します。

※仕様確認はエントリー順に実施します。仕様確認場所に並んでお持ちください。

② 製作物の質量計測

大会当日の計量には最小質量表示が 0.1g の秤を使用します。

③ 審査員による審査

- ・ 審査は事前にデータで提出しているプレゼンテーションポスター、展示されている作品を用いて行います。
- ・ 審査は、「プレゼンテーションポスター」、「作品の構造的合理性」、「作品の独自性」の 3 項目で評価します。

④ セッティング荷重

载荷治具、スプリングフック、载荷ワイヤー、おもり受け等の総質量約 8kg がセッティング荷重として作用しますが、このセッティング荷重は耐荷荷重には含めないものとします。

⑤ 耐荷性能試験

载荷試験の様子はオンライン配信します。**载荷試験は各チームにより実施してもらいます。各チームの学生3名が登壇し、作品の設置および载荷を行ってください。**登壇者は、ヘルメット、ゴーグル、軍手、安全靴を着用し、長袖、長ズボンの服装であることとします。なお、ヘルメット、ゴーグルについては、主催者側で用意しますが、軍手、安全靴は各高専で準備してください。

载荷試験終了後(作品の入れ替えの時間)に、登壇者に一言だけコメントをいただく予定です。

以下、(a)～(d)に耐荷性能試験の詳細を示す。

(a) 载荷順

競技は、3 台の载荷装置を用い、3 組同時に载荷試験を実施します。载荷順については、原則として質量の重い順とします。载荷順は会場内掲示等で公開します。なお、同一高専で2作品を応募した高専については、2作品のうち質量の重い橋を 1 日目に载荷試験する予定です。また、オンライン参加となった高専も1日目に载荷をする予定です。

(b) 载荷装置への設置

登壇者が作品の組み立てを行い、「設置時間 90 秒」以内に載荷台に設置します。また、登壇者は、おもり受けと防振マットの間隔(50～100mmの範囲)を確保した上で、吊りピースと載荷ワイヤーを結合してください。

(c) 載荷方法

初期荷重は 10kg とし、50kg まで載荷を行う。40kg までは、10kg 刻み、40kg 以降は 5kg 刻みで載荷を行います。各載荷段階において、載荷後 10 秒間の耐荷状態の確認を行った後、次の載荷を行います。なお、耐荷状態とは、おもり受けが防振マットに接していない状態のこととします。おもり受けが防振マットに接した場合、作品に破断が生じていなくても「崩壊」しているものとみなして競技を終了します。また、ズレ止め機構の載荷治具 Sa 点および Sb 点の丸鋼が載荷試験中に作品内に 11mm を超えて入った場合は「崩壊」とみなして競技を終了します。

(d) 競技得点

- ・ 載荷点：耐荷荷重の kg 数を点数とする（満点 50 点）。
- ・ 軽量点：満点 30 点とし、軽量順で 1 位のチームに 30 点を与える。2 位以降については、1 位のチームの質量をチームの質量で除して、それに 30 点を掛けた点数を与える。なお、作品を載荷装置にセットし、かつ、吊りピースと載荷ワイヤーの結合までを行い、(c) 載荷方法（耐荷性能試験）に入る前に耐荷状態でなくなった場合は軽量点の対象としません。

3. 本選までのスケジュール

本選に向けて、以下のスケジュールで、(1)エントリー手続き、(2)集合写真・製作風景の写真データの提出、(3)プレゼンテーションポスターデータの提出、(4)参加費の納入、(5)応募作品・プレゼンポスター・写真データの配送もしくは持参してください。

(1) エントリー手続き

- ① 受付期間：2022 年 10 月 24 日（月）～10 月 31 日（月）17:00
- ② 応募方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの構造デザイン部門の「エントリー」から行ってください。
- ③ 受領確認：エントリーの受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信します。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認してください。また、エントリーではチームメンバー全員を入力してください。
- ④ エントリーリストの公開：
2022 年 11 月 2 日（水）にデザコン 2022 in 有明 公式ホームページ上にリストを公開する。エントリーしたチームはエントリーリストを必ず確認し、エントリー受付漏れがあった場合は 2022 年 11 月 4 日（金）17:00 までに下記メールアドレスに連絡すること。2022 年 11 月 4 日（金）17:00 以降のエントリー訂正等は受け付けないので注意する。なお、エントリーの確認をもって、「全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明 構造デザイン部門」への出場権を得たものとします。

有明工業高等専門学校 構造デザイン部門事務局 e-mail : dc-22kozo@ga.ariake-nct.ac.jp

(2) 集合写真・製作風景の写真データの提出

本選前にチームメンバーの集合写真(2MB 程度)および作業中の様子を撮影していただき、写真データをご提供ください。これらの写真はオフィシャルブックに掲載されます。お手数ですが、写真データを CD-R or DVD-R に保存して頂き、大会期間中に引率教員の先生は、受付に記録メディアをお渡しください。（事前提出のバックアップとさせていただきます。）

- ・ 枚数は指定しません。
- ・ ピースサインはお控えください。

(3) プレゼンテーションポスターデータ等の事前提出

プレゼンテーションポスターには学校名、作品名、コンセプト、模型の写真、アピールポイントを記載してください。

- ① 提出期間：2022年11月22日（火）～11月29日（火）17:00
- ② 提出方法：下記URLへアクセスして必要事項を入力し、下記4点をアップロードしてください。

アップロードフォームのURL：<https://forms.gle/kjboK5jWKXdD9sAP9>

1. プレゼンテーションポスターPDFデータ

ファイル形式：PDF（.pdf） データサイズ：10MB未満

サイズ等：A2サイズ横書き

ファイル名：高専名・キャンパス名_代表者学生氏名（「高専」「キャンパス」の文字は除く。）

例）仙台・名取_青葉太郎.pdf

例）有明・大牟田一郎.pdf

※以下のファイルアップロードも同様のファイル名とする。複数ファイルがある場合はファイル名の最後に数字を入力してください。

2. 仕様確認表

以下から仕様確認エクセルファイルをダウンロードし、必要事項を記入してください。

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1qbEs0fkJm13Z6fIPt_r3dyIHxqN6MpxTHqXA_RtVGx6c/

3. 集合写真

上記（2）「集合写真・製作風景の写真データの提出」と同じファイルとします。

4. 作業中の写真

上記（2）「集合写真・製作風景の写真データの提出」と同じファイルとします。

(4) 参加費

- ・ 参加費は、1チーム当たり8,000円とします。
- ・ 参加費は、2022年11月7日（月）までに以下の口座に振り込んでください。
- ・ 振り込み者名は、「高専名の略称、空白、担当者名」としてください。
 - 例）センダイナトリ アオバタロウ
 - 例）アリアケ オオムタケンジ
- ・ 振り込まれた参加費について、いかなる場合においても返金には応じません。

【振込口座】

銀行名：福岡銀行
支店名：大牟田支店（店番：691）
口座種別：普通預金
口座番号：3447067
口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション 学生課長 江崎 浩

ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション
ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ

(5) オンライン参加での応募作品、プレゼンテーションポスター、集合写真および製作風景の写真データの配送

- ・ 作品とプレゼンテーションポスター、集合写真・製作風景の写真データを同一梱包として、下記会場住所に配送ください。
- ・ 配送は日時指定として、12/9（金）14時～16時に到着するよう指定をお願いします。
- ・ 着払いでの送付はご遠慮願います。
- ・ 梱包した配送物に本要項 p 6 の送付表を貼付してください。

【配送先住所】

大牟田文化会館
〒836-0843
福岡県大牟田市不知火町 2-10-2
TEL: 0944-55-3131

5. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属しますが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとします。オフィシャルブックには応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載されます。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとします。

6. 付記

- (1) プレゼンテーションポスターの作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現にしてください。
- (2) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払いますが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねます。
- (3) 応募要項に違反した場合は失格となる場合があります。

○本要項に変更があった場合は、随時ホームページで連絡または本選オリエンテーション時に説明します。

8. 問い合わせ先

有明工業高等専門学校 構造デザイン担当事務局 e-mail: dc-22kozo@ga.ariake-nct.ac.jp
事務的な質問のみ受け付けます。課題内容の質疑は受け付けません。

作品の送付について

作品を送付する場合、以下に従って送付して下さい。

- 送付業者：指定はありません。
- 時間指定：12月9日（金）14時～16時
- 送付先：大牟田文化会館

〒 836-0843 福岡県大牟田市不知火町 2-10-2

TEL：0944-55-3131

- 注意：必ず時間指定で送付してください。着払いでの送付はご遠慮願います。
輸送時の損傷について、大会事務局は一切責任を持ちません。

送付にあたっては、以下に記入の上、梱包物の外側のわかりやすい場所に貼付して下さい。

----- キリトリ -----

デザコン 2022 in 有明

部門名： 構造デザイン 部門

学校名： 高専

(キャンパス名：)

デザコン2022 in 有明 構造デザイン部門 結果一覧

順位	作品番号	高専名	作品名	質量(g)	軽量点	審査員点	載荷点	合計	受賞
1	9	米子高専	火神岳	58.6	30.0	15.6	50	95.6	最優秀賞
2	31	舞鶴高専	継手の濃厚接触	74.8	23.5	12.8	50	86.3	優秀賞
3	49	徳山高専	一繋	110.0	16.0	15.6	50	81.6	優秀賞
4	22	仙台高専・名取キャンパス	Simple Dividing Good structure	117.2	15.0	14.8	50	79.8	審査員特別賞
5	27	鹿児島高専	スレンダー Go	115.1	15.3	14.1	50	79.4	
6	23	新モンゴル高専	団結	101.9	17.3	12.0	50	79.3	
7	54	IETモンゴル高専	トラス+面材	99.4	17.7	11.5	50	79.2	
8	53	IETモンゴル高専	KHANA	102.6	17.1	11.6	50	78.7	
9	50	徳山高専	二猫一	121.6	14.5	13.6	50	78.1	
10	35	舞鶴高専	耐えあがれ!	113.1	15.5	12.0	50	77.5	
11	17	都立産業技術高専・品川キャンパス	富嶽	133.2	13.2	14.1	50	77.3	
12	7	呉高専	双嶺	114.9	15.3	16.5	45	76.8	日刊建設工業新聞社賞
13	43	秋田高専	合橋	147.1	12.0	13.9	50	75.9	
14	1	福井高専	波翼	141.6	12.4	13.1	50	75.5	
15	24	新モンゴル高専	アーチャー	152.4	11.5	13.1	50	74.6	
16	38	津山高専	天の梁	98.8	17.8	13.6	40	71.4	
17	42	苫小牧高専	翼	268.9	6.5	14.7	50	71.2	審査員特別賞
17	45	明石高専	3.14...	137.9	12.7	13.5	45	71.2	
19	30	有明高専	flux	260.0	6.8	13.7	50	70.5	
20	51	岐阜高専	合掌橋	290.0	6.1	12.4	50	68.5	
21	46	小山高専	糸	381.0	4.6	11.9	50	66.5	
22	10	石川高専	E.Z.D.08-Rhamen	429.1	4.1	12.0	50	66.1	
23	3	サレジオ高専	ツインブリッジ	725.5	2.4	12.4	50	64.8	
24	26	釧路高専	夕鶴	676.0	2.6	12.0	50	64.6	
25	6	阿南高専	凸凹結合台形ラーメン	948.2	1.9	12.5	50	64.4	
26	12	和歌山高専	ふっくら山	463.4	3.8	10.3	50	64.1	
27	47	小山高専	翔け橋	518.0	3.4	10.5	50	63.9	
28	5	豊田高専	合掌	823.4	2.1	11.6	50	63.7	
29	15	長岡高専	えーフルート	880.8	2.0	9.9	50	61.9	
29	41	米子高専	翡翠	100.3	17.5	14.4	30	61.9	
31	19	都城高専	暁雲	395.5	4.4	12.4	45	61.8	
32	39	神戸市立高専	X	1802.0	1.0	9.9	50	60.9	
33	52	明石高専	ARCH×ARCH	178.0	9.9	10.5	40	60.4	
34	8	呉高専	人ツ橋	118.2	14.9	15.1	30	60.0	
35	2	福井高専	剛龍	276.9	6.3	13.1	40	59.4	
36	13	和歌山高専	由良競	612.4	2.9	10.3	45	58.2	
37	36	石川高専	Japanese Mt.Fuji	291.1	6.0	12.0	40	58.0	
38	32	モンゴル科技大高専	ウニートノ(ゲル天井屋根)	136.2	12.9	12.3	30	55.2	
39	28	近畿大学高専	buckle	152.4	11.5	11.5	30	53.0	
40	29	近畿大学高専	ラ・ミルフィーユ	153.0	11.5	10.7	30	52.2	
41	20	長野高専	空	112.2	15.7	15.7	20	51.4	
42	14	松江高専	アジの開き	251.4	7.0	13.5	30	50.5	
43	33	モンゴル科技大高専	両親(アーウ エージ)	118.0	14.9	11.9	20	46.8	
44	21	長野高専	白	141.7	12.4	14.1	20	46.5	
45	34	香川高専・高松キャンパス	人	656.6	2.7	11.1	30	43.8	
46	40	神戸市立高専	紅葉	1314.4	1.3	10.3	30	41.6	
47	44	秋田高専	引張橋	214.9	8.2	12.9	20	41.1	
48	18	都立産業技術高専・品川キャンパス	白夜	294.8	6.0	8.0	20	34.0	
49	37	群馬高専	崢嶸	1172.8	1.5	10.3	20	31.8	
50	16	鶴岡高専	鶴橋	1293.3	1.4	9.9	20	31.3	
51	4	鶴岡高専	紡	737.5	2.4	11.1	10	23.5	
52	48	福島高専	深淵	281.2	6.3	6.6	10	22.9	
53	25	大阪公立大学高専	オーエン橋	864.5	2.0	10.5	10	22.5	
54	11	長岡高専	ツカウチブリッジ	911.5	1.9	10.1	0	12.0	

第 19 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明「NEW!!」

空間デザイン部門 募集要項

[テーマ：2040 年 集いの空間]

【課題概要】 これから先、約 20 年後のことを想像してみてください。これまで皆さんが生きてきた時間と同じぐらいの時間の先のことである。きっと、私たちを取り巻く事情は今まで以上に大きく変わっていることだろう。少子高齢化はますます進み、働き方や家族観など、いろいろな価値観が変化していきなかに、私たちは地域社会のなかでどのように暮らしているだろうか。近年では、新型コロナウイルスの世界的な拡大が、これまでの当たり前だった日常生活に大きな変化をもたらしている。このような歴史的な社会変化に直面しているこの機会に、遠くはない未来における人々の集いの空間をデザインしてほしい。社会が変わり、建築や都市空間も変わることが予想されるなかで、人はどのような場所にどのように集い、生活や交流をしているのだろうか。人々の新しい生活の舞台には、新しい空間の創出が期待される。それは新しい公園のようなものかもしれないし、新しい都市施設かもしれないし、住まいかもしれない。皆さんには、ぜひ、地域の 20 年後を鑑みつつ、提案者自らが地域に生きる当事者の目線に立ち、その地域の未来を、人々が集う場のかたちから、想い描いて欲しい。

1. 設計条件

- ① 計画の対象とする敷地は、あらゆる地域を自由に想定してよい。
- ② 実際の地域・場所などの抱える課題、将来の地域社会の状況について調査したうえで提案すること。
- ③ 住宅、公共施設、商業施設、広場など、用途は自由に想定してよい。

2. 競技方法

空間デザイン部門は、予選と本選に分けて実施する。

(1) 予選

- ① 提案内容をプレゼンテーションポスター(A1 サイズ (横向き) 1 枚)にまとめ、写真又はデータにて期日までに所定の宛先に提出する。
- ② 応募されたプレゼンテーションポスターに対する審査員の書類審査によって 10 点程度が選出され、本選出場者が決定する。
- ③ 審査結果はホームページに掲載するほか、応募された各高専の学生課宛に e-mail により連絡する。

(2) 本選

本選では、次のプレゼンテーションに基づいて審査委員による評価を行う。

- ① プレゼンテーション： スライドショー、模型 (CCD カメラまたはビデオカメラ) 等を用いた口頭発表とする。発表は 1 チームあたり説明、質疑応答を含め 15 分程度とする。
- ② ポスターセッション： ポスター (A1 サイズ (横向き) 最大 2 枚：予選で提出したポスターの他に、追加あるいは差し替えることは可)、模型等を用いたプレゼンテーションおよび審査員による質疑を行う。

プレゼンテーションスペースは各チーム幅 1,800mm 奥行き 1,800mm 高さ 1,800mm の空間とし、ポスターおよび模型等を用いたプレゼンテーションを行うこととする。なお、プレゼンテーションの時間や方法、ポスター・模型等を展示する衝立やテーブルなど、主催者が用意する備品やプレゼンテーション環境等に関する情報は、予選審査終了後、デザコン 2022 in 有明公式ホームページ (<https://デザコン.com/>) にて公開する「本選出場要項」にその詳細を示す。

(3) 審査ポイント

以下の項目を重点的に評価する。

- ① 提案の創造性
- ② デザインの総合性
- ③ プレゼンテーション力

3. 応募方法等

Web による手続きとする。Web による手続きを利用するためには、Google アカウントが必要となる。なお、空間デザイン部門では、応募図面の画像データファイルのアップロード（Web）による提出を求める。

(1) 質疑応答

募集要項の内容（課題内容、設計条件）に関する質疑応答は行わない。ただし、日程および提出方法などの事務的な質疑については、下記の期間・方法にて受け付ける。

- ① 受付期間：2022年4月26日（火）～5月10日（火）17:00
- ② 質問方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの空間デザイン部門の「質疑受付」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 回答公開：5月下旬～6月上旬に、デザコン 2022 in 有明公式ホームページの空間デザイン部門の「質疑応答」にて、回答の内容を公開する。

(2) 予選エントリー時の提出物

- ① 応募図面の画像データ
 - ・ 応募図面は、A1 サイズ（横向き）のプレゼンテーションポスター 1 枚とする。
 - ・ プレゼンテーションポスターの内容は、設計趣旨、配置図、平面図、立面図、断面図、透視図（CG、模型写真含む）、イラスト等を適宜選択し、表現すること。
 - ・ 応募図面には、応募者の氏名・所属が判別できるような情報を記入しないこと。
 - ・ 設計趣旨等の文章表現について、主たる言語は日本語とすること。
 - ・ 画像データのファイル形式は、PDF（.pdf）あるいは JPEG（.jpg）とし、データサイズは 300MB 以下とする。
 - ・ ファイル名は、[高専名（・キャンパス名）_代表者学生氏名]（「高専」「キャンパス」の文字は除く。）とする。
例）仙台・名取_仙台太郎.pdf、有明_高専花子.pdf

(3) 予選エントリー手続き

- ① 受付期間：2022年8月24日（水）～9月7日（水）17:00
- ② 応募方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの空間デザイン部門の「エントリー」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 受領確認：エントリー（作品）の受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。

(4) 本選への参加

本選は、2022年12月10日（土）・11日（日）に実施する。本選の詳細 [本選出場要項等] に関しては、10月上旬にデザコン 2022 in 有明公式ホームページに公開するとともに、予選通過者の指導教員にメールにて直接通知する。

(5) 参加費

- ・ 予選審査費は 1 作品につき 2,000 円とし、本選参加費は 1 名あたり 1,800 円とする。
- ・ 予選審査費は 2022 年 9 月 13 日（火）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 本選参加費は 2022 年 11 月 7 日（月）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 振り込み者名は、「高専名の略称, 空白, 担当者名」とすること。
 - 例) センダイナトリ アオバタロウ
 - 例) アリアケ オオムタケンジ
- ・ 振り込まれた予選審査費および本選参加費について、いかなる場合においても返金には応じない。

【振込口座】

銀行名：福岡銀行 支店名：大牟田支店（店番：691） 口座種別：普通預金 口座番号：3447067 口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション 学生課長 江崎 浩 ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ
--

4. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生及び専攻科生とする。
- (2) チームは、1～4名で構成する。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一人物が他部門も含め複数のチームに参加することは認めない。
- (5) 同一人物の予選へのエントリー制限について
 デザコン 2022 in 有明では、空間デザイン部門・創造デザイン部門・AM デザイン部門の 3 部門のうち 1 部門にしか応募できない。ただしこの 3 部門で予選通過できなかった場合には、構造デザイン部門への応募を可とする。

5. 審査員及び審査方法

審査方法は、予選、本選ともに審査員の協議によるものとする。なお、本選は公開審査とする。

委員長：末廣香織（建築家 九州大学教授・NKS2 アーキテクト共同代表）

委員：百枝優（建築家 百枝優建築設計事務所代表）

委員：工藤浩平（建築家 工藤浩平建築設計事務所代表）

委員：宮原真美子（佐賀大学 理工学部 理工学科 都市工学部門 准教授）

6. 表彰

- (1) 最優秀賞（日本建築家協会賞（予定））1 点
- (2) 優秀賞 2 点
- (3) 審査員特別賞 2 点

7. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。なお、予選に提出された応募作品についても公開を予定している。

8. 付記

- (1) 応募作品には他のコンテスト、コンペティションに応募したものを使用してはならない。
- (2) 応募要項に違反した場合は失格となる場合がある。
- (3) 応募作品は返却しない。
- (4) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても主催者は一切責任を持たない。
- (5) プレゼンテーション資料の作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現を用いること。

空間デザイン部門では、質問はありませんでした。

高専名 (キャンパス名)	氏名 (〇代表者)
釧路高専	〇鎌田 晴渡, 吉野 優哉, 平野 雄大
釧路高専	〇山口 杜基, 渡邊 海輝, 横山 暖人
釧路高専	〇三橋 優祐, 鳥谷部 桂大, 松浦 虎太郎
釧路高専	〇小林 愛里, 山崎 愛莉, 増川 綺莉, 金子 梨々香
釧路高専	〇増田 悠一郎, 小椋 悠加, 下村 双葉, 森 美結
釧路高専	〇宮原 心温, 梅津 翔, 細越 優希
仙台高専 名取キャンパス	〇佐々木 愛, 伊藤 弓史, 鈴木 千愛
仙台高専 名取キャンパス	〇齋藤 花楠子, 小野寺 遥香, 佐々木 心音, 佐々木 莉央
仙台高専 名取キャンパス	〇安藤 星空, 加藤 颯, 田邊 優和
仙台高専 名取キャンパス	〇阿部 向日葵, 佐々木 望夢
仙台高専 名取キャンパス	〇菅野 莉玖, 齋藤 由良, 武藏 翔
仙台高専 名取キャンパス	〇尾形 大哉, 日塔 晴菜
仙台高専 名取キャンパス	〇及川 純也, 相庭 啓佑
仙台高専 名取キャンパス	〇渋谷 駿, 尾崎 麗桜
仙台高専 名取キャンパス	〇朝倉 眞紘, 高橋 涼馬, 大河原 未雲
仙台高専 名取キャンパス	〇小栗 昂大, 滝口 葉菜, 鈴木 おりん, 長沼 杏
仙台高専 名取キャンパス	〇古川 鈴音, 工藤 碧乃, 伊澤 好風
仙台高専 名取キャンパス	〇高橋 登和, 岡田 宗一郎, 吉田 勝斗
仙台高専 名取キャンパス	〇後藤 杏紗, 早坂 真之介
仙台高専 名取キャンパス	〇阿部 直樹, 藤井 貴哉, 長谷部 大夢
仙台高専 名取キャンパス	〇木村 星満, 竹内 駿翔
仙台高専 名取キャンパス	〇浅沼 晏, 藤島 愛梨
仙台高専 名取キャンパス	〇藤原 ひかる, 高野 結奈, 三浦 夢瑚, 菅野 翔太郎
秋田高専	〇鎌田 大輝, 若狭 千乃
小山高専	〇岡本 大輝
小山高専	〇山田 聡太
長野高専	〇塚原 治美, 高野 快成, 田中 美帆, 田原 一樹
長野高専	〇関 晃紀, 佐久間 幸太郎, 青木 桃音
長野高専	〇佐藤 拓美, 嶋田 悠太郎, 森 穂乃花
サレジオ高専	〇安西 夏緒, 湊 尚己, 半澤 龍大
サレジオ高専	〇多和田 風夏, 坂東 礼菜, 木下 空澄
サレジオ高専	〇下河邊 千里, 具 仁恵, 西村 岳, 岩崎 七海
石川高専	〇鈴木 尋
石川高専	〇井口 美南, 松本 琉矢, 山田 響, 吉田 美桜
石川高専	〇松田 彩, 池 菜摘, 中村 木結芽, 安田 明生
石川高専	〇川合 由蘭, 中出 悠, 澤田 慶太
福井高専	〇大久保 洋平, 寺前 海斗
岐阜高専	〇小川 泰世, 光山 歩, 渡邊 凜
岐阜高専	〇後藤 優太
岐阜高専	〇佐藤 翔, 須田 隆ノ介, 船戸 裕汰

高専名 (キャンパス名)	氏名 (〇代表者)
岐阜高専	〇漆崎 萌々絵
岐阜高専	〇河村 月紫
岐阜高専	〇田口 広美
豊田高専	〇長谷川 聡太, 田浦 瑠依, 梅田 蓮史, 川崎 翔央
豊田高専	〇大河内 柚季, 那須 陽紗希, 矢浦 このみ
豊田高専	〇三鬼 優矢, 中田 圭一郎, 松原 香穂, 小松 峻太郎
豊田高専	〇鈴木 美依奈, 塩見 有葉, 藤田 梨恵
豊田高専	〇高橋 未和
豊田高専	〇竹内 沙爽, 中根 杏, 吉井 香乃, 望月 結衣
豊田高専	〇村松 嵩太, 高津 貴祥, 高山 ひまり, 原田 真歩
豊田高専	〇澤田 拓磨, 増村 優吾, 兒子 創汰, 海野 寛太
豊田高専	〇宮宇地 麟, 徳重 凜香, 中江 琉生
舞鶴高専	〇江田 雪乃
明石高専	〇北方 陽向, 坂本 裕, 岡 未都希, 天辰 昂平
明石高専	〇大池 岳, 宮田 元登, 佐々木 誠大, 神馬 綾乃
明石高専	〇寺下 響, 上月 克仁
明石高専	〇山本 雄大, 妹島 賢治, 馬場 悠成, ユーツ 望天
明石高専	〇野川 瑛統, 首浦 胡桃, 増本 結衣, 山口 大空
明石高専	〇佐武 真之介, 松島 太陽
明石高専	〇北風 慶人, 伊口 蒼真, 丸山 泰生
明石高専	〇増本 祥太, 川枝 夕姫, 惣輪 瑞月
明石高専	〇大西 創, 池上 智哉, 田辺 晃聖, 松山 智咲
明石高専	〇三島 朋也, 西田 伊吹, 東田 陽也, 吉川 優
明石高専	〇坂口 琴音, 関川 珠音, 山下 さと, 山本 らな
明石高専	〇金端 息吹, 小堀 裕輝, 所 奈樹
明石高専	〇寒竹 志勇
大阪公立大学高専	〇渡邊 涼平
大阪公立大学高専	〇庄司 千夏良, 鞍留 希空, 京谷 湧太
大阪公立大学高専	〇池田 隼, 和氣 舞佳
米子高専	〇高野 陽子, 宮本 愛実, 山本 咲菜子
米子高専	〇野坂 美羽, 加藤 美羽
米子高専	〇熊中 昇陽, 朝久 桃伍, 辻 壮太, 初芝 滉太
米子高専	〇岡田 初奈, 樋口 ほのか
米子高専	〇本間 汐莉, 小林 夕莉, 堀尾 真緒
米子高専	〇福井 三玲, 柳楽 晴, 横山 玲希
米子高専	〇松原 ひな子, 徳田 来夏, 宮本 滯
米子高専	〇高永 志帆, 河原 朱里, 原 凪紗
米子高専	〇松永 旭陽, 岸田 空大, 鐵本 怜士真
米子高専	〇野口 凜太郎, 大和田 峻介, 似内 暁彦, 村岡 拓真
米子高専	〇西川 和樹

高専名 (キャンパス名)	氏名 (〇代表者)
米子高専	〇森灘 亜実, 藤川 理子, 藤田 真綾
米子高専	〇山中 雄太, 岡田 凌空, 米井 悠河, ツェグメドドルジ ツェドー
米子高専	〇佐々木 律, 川部 知歩
米子高専	〇佐々木 悠作, 安藤 大智, 植村 洸祐, スミヤダシ ビルグーン
米子高専	〇勝部 麻衣
米子高専	〇門脇 倅, 谷口 萌紬
米子高専	〇中山 航大, 加茂 大助
呉高専	〇石田 瑠花, 岡戸 和音, 金谷 賢志朗
呉高専	〇宮本 知輝, 大坂 康介
呉高専	〇佐々木 悠心, 國本 康平, 郷坪 大地, 加藤 悠雅
呉高専	〇岡本 夏海, 外村 天音
呉高専	〇亀田 朋樹, 岩谷 香里, 笠江 真雪, 橘高 雷士
阿南高専	〇井上 怜嗣, 佐藤 綾人, 遠藤 蒼太, 佐竹 優季
阿南高専	〇藤川 大輝, 美馬 好大, 後藤 翼, 吉田 好花
高知高専	〇石井 美緒
高知高専	〇池 優二郎
高知高専	〇北岡 由衣, 安田 遥香
有明高専	〇高岡 紅, 北川 恵美, 谷口 純美, 徳永 佳乃
有明高専	〇池亀 斗, 市川 侑真
有明高専	〇鹿子島 大貴
有明高専	〇榊 竜青, 江島 尚, 中園 留菜, 山田 くるみ
有明高専	〇緒方 千華, 赤木 優羽, 田原 慎太郎, 中村 流風
有明高専	〇川西 健太郎, 武藤 光輝, 西村 陽翔
有明高専	〇鷲見 武洋, 高尾 優希, 七條 来夢, 池上歩夢
有明高専	〇中村 琢人, 齋藤 月映, 山本 晃瑠
熊本高専 八代キャンパス	〇野田 綾乃, 日高 菜七子, 山本 有璃
熊本高専 八代キャンパス	〇上田 結子, 小松 瞬, 中原 水月, 福山 湧太
熊本高専 八代キャンパス	〇沖田 梓帆
熊本高専 八代キャンパス	〇平井 愛斗, 原田 英治, 松崎 愛
都城高専	〇今村 真之祐
都城高専	〇前田 刻愛
都城高専	〇前田 真明
鹿児島高専	〇菊永 慧
鹿児島高専	〇丸尾 成央, 鈴木 碧, 福永 新, 野妻 美晴

デザコン2022 空間デザイン部門 予選通過作品

2022/10/11

作品番号	作品名	高専名 (キャンパス名)
6	むすんで、ひらいて。～時代とともに地域にひらいていく、子どもの空間～	明石高専
10	フナマチの円居	明石高専
12	温子地新 ～東京ドーム前広場・流域化計画～	明石高専
13	神戸暗渠再考 ～せせらぎのある都会ぐらし～	明石高専
15	ECHOで広がる	豊田高専
22	神鉄八百号	明石高専
23	終のマチが紡ぐモノ	高知高専
29	水湊	岐阜高専
47	しょーにん通り ～「ただいま学校に帰りました」～	米子高専
53	点から道へ、道から人へ	仙台高専 (名取)
54	響～“学びと遊び”、“地域住民と外国人技能実習生”の共鳴～	呉高専
62	坂本いろりばた郵便局	熊本高専 (八代)
67	和気曖昧	仙台高専 (名取)
68	AQUESTION	仙台高専 (名取)
76	WaterCycle -地元×世代で集うサードプレイス-	有明高専
82	まちみるsta	都城高専
88	空博のつながり	有明高専
93	産業の森	仙台高専 (名取)
99	還りみちー暮らしを紡ぐ「みち」ー	石川高専
108	Plot	石川高専

以上20作品

第 19 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明 “New!!”
空間デザイン部門 本選出場要項
[テーマ：2040 年 集いの空間]

1. 本選概要

本選では審査員からのブラッシュアップコメントを参照し、予選時の提案からより具体的に内容を深めた提案を成果物としてまとめると共に、各チームが本選会場において対面発表してもらいます。

今年度の本選開催方式は、2段階審査形式で行います。予選を通過した作品は、初日はポスターセッション形式の発表・審査を「ファーストラウンド」として行い、2日目の審査に進出する作品を決定します。2日目は、初日の審査で選ばれた作品のみがプレゼンテーションを行う「ファイナルラウンド」にてプレゼンテーションをしてもらい、公開審査によって優秀な作品を選出します。なお、直前で新型コロナ等の影響により対面発表ができなくなったチーム（デザコンHP開催方式を参照し該当するチーム）については、所属高専からオンライン発表によって参加できるように配慮します。

本選当日の様子はライブ配信を予定しています。おおよその日程は以下の通りです。

12月10日（土）：本選1日目（ファーストラウンド・公開審査）9:30～18:00

12月11日（日）：本選2日目（ファイナルラウンド・公開審査）9:00～13:00

2. 審査・作品展示会場

大牟田文化会館小ホール（福岡県大牟田市不知火町2丁目10-2）

Tel: 0944-55-3131

3. 提出物

（1）プレゼンテーションボード（A1判横向き1～2枚）

① 3mmのステンボードに図面を貼りパネル化したプレゼンテーションボード

プレゼンテーションボードの裏面には、予選審査のエントリー時に返信されたメール本文を印刷し、貼り付けてください。A1判横向きで最大2枚まで。下記の指定日時での郵送または当日の持ち込みをお願いします。

② 図面のpdfデータ（図面ごとに2つのデータファイルに分ける）

pdfデータのファイル名は、エントリーNo+高専名+図面番号（例：110 有明高専1、110 有明高専2）としてください。また、pdfデータには通し番号を付け、印刷して審査資料として使用しますので、セキュリティはかけないでください。データの提出方法は、別途、指導教員までご連絡いたします。

（2）模型

模型は会場に用意したテーブル（天板サイズ1800mm(W)×600mm(D)）の上に平積みできるもので、総重量は10Kg以下とします。模型の搬入は事前の郵送（詳細は下記）、または、当日の直接搬入とします。

(3) その他

①送付先について

プレゼンテーションボードと模型は、下記の住所へ【12月9日(金) 12:00~17:00】の間に到着するよう、日時指定をして郵送ください。

<宛先>

〒836-0843 福岡県大牟田市不知火町2丁目10-2
大牟田文化会館 小ホール デザコン 空間デザイン部門

<依頼主名の表記>

高専名・エントリーNo.・代表者氏名

【注意】 模型の梱包については輸送時に破損等のないように万全を期してください。

②模型等の取り扱いについて

図面の展示、模型の開封と展示台への設置や審査後の梱包と返送作業等については、原則各学校の参加教員・学生で行なってください。

万が一、教員や学生の来場が難しい場合は、これらの作業を有明高専の教員と学生が代行することになります。そのため、模型は開封後、簡単に並べて設置できるものとしてください。開封後の模型の組み立てや、修繕などは受け付けかねますのでご承知ください。

なお、届いた荷物の取り扱いや、万が一の模型の開封・会場設置・梱包等の作業については十分に注意して行いますが、作業で生じた破損等については一切責任を負いかねますのでご了承ください。

③模型のオフィシャルブック用写真撮影について

展示する模型は、オフィシャルブック用に写真撮影を予定しています。12月10日(土)の午前中に写真撮影する予定です。

4. スケジュール

12月10日(土) <本選1日目_ファーストラウンド>

10:00~11:20	プレゼンテーションボード・模型の設営 模型の撮影(オフィシャルブック用)
11:20~11:50	展示確認(オンライン参加チームがいた場合の接続テスト)
11:50~12:20	審査員事前審査(参加者は作品展示エリアへの立ち入りを禁止)
昼休憩	
12:30-13:00 開会式@大ホール	
13:00~13:20	オリエンテーション
13:20~14:30	ファーストラウンド・ポスターセッションA
14:50~16:00	ファーストラウンド・ポスターセッションB
16:20~18:00	決勝ラウンド作品の選出(公開審査) ポスターセッション講評(交流ディスカッション)

12月11日（日）〈本選2日目_ファイナルラウンド〉

8:40~9:00	PC 接続確認
9:00~9:15	オリエンテーション
9:15~11:15	プレゼンテーション
11:15~11:30	休憩
11:30~12:30	公開審査
12:30~13:00	総評
13:00~13:50	休憩・撤収
14:00~	閉会式
全プログラムの終了	

5. 審査方法について

●ファーストラウンド（1日目）：ポスターセッション形式とします。

- ・本選出場チームを2グループに分け、グループ別に審査します。
- ・各展示ブースでの発表となります。順番が来たら時間内に発表してください。
- ・発表はエントリー番号の早い順番で行います。
- ・審査員は、事前に展示を確認する時間を取ります。
- ・各チーム持ち時間は6分とし、うち4分を発表、2分を審査員からの質疑の時間とします。

●ファイナルラウンド（2日目）：オーラルセッション形式とします

- ・初日に選抜されたチームは、プレゼンテーションボードや模型、パワーポイントやPDFファイルによるスライド投影などを用いて発表することができます。
- ・発表順は、当日朝のオリエンテーションにおいて、くじ引きで決めます。
- ・各チームの発表時間は6分とし、その後、審査員からの質疑コメントを受ける時間を予定しています（5分以上は確保を予定。発表数に応じて変更）。

※パワーポイントによる発表の場合は、持参したパソコン（HDMI 接続コネクタを有すること）を接続して発表を行ってください。機器トラブルなどに備え、会場には、ノートPC（OS：windows）も予備で用意する予定です。

※1日目の「決勝ラウンド進出作品の選出・ポスターセッション講評」、また、2日目の「公開審査」では、審査の必要に応じて再度各チームに質問をする場合があるので、必ず参加してください。

※新型コロナ等により現地での発表が困難となったチームは、コンテストにはオンライン参加とし、準備に関して別途対応いたします。

6. 本選のライブ配信

初日はファイナルラウンドの作品選出時のみ、二日目は、プレゼンテーションと公開審査の様子を配信予定です。配信 URL は別途連絡します。

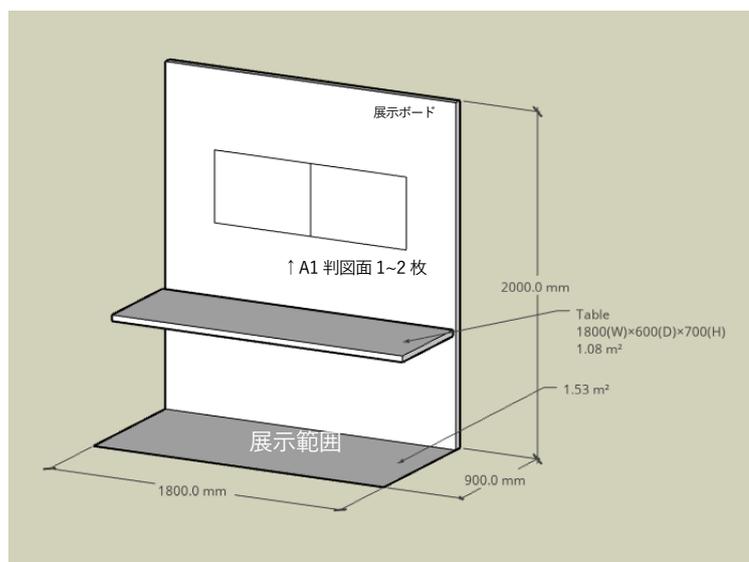
7. 作品展示（予選通過作品展示ブース・予選参加作品展示）

●予選通過作品の展示ブースについて

小ホールにて本選通過作品 20 点を展示します。

●展示ブース構成について

- ・展示ボード 1800 mm(W)× 2000 mm(H)、テーブル 1800 mm(W)×600 mm(D)×約 700 mm(H)を事務局で用意します。
- ・展示範囲はテーブルを含む 1800mm(W)×900mm(D)×2000 mm(H)の範囲とします。



展示ブース構成イメージ図

(テーブルの高さが若干変わる可能性があります)

- ・図面は展示ボードへ貼り付けを行ってください。
- ・模型の重量は 10 キロ以内としてください。
- ・展示設営後、事務局による展示確認（11:50～12:20）を行います。
- ・机の撤去は申し出があった場合は認める。
- ・模型以外の展示として、ディスプレイ等の展示も認めますが、電源は会場では用意しないので、各自で準備してください。
- ・模型の梱包材は、会場の指定の場所に保管ください。

●予選参加作品展示

予選参加作品は、縮小印刷版の冊子の設置と提出図面を小ホールホワイエに設置するスクリーンにて紹介します。

8. 本選出場チーム及び指導教員への制作過程の依頼事項

(1) チーム集合写真、制作中の様子を撮影した写真の提出

今回も記録集として、建築資料研究社/日建学院からオフィシャルブックを発刊します。オフィシャルブックに掲載するチームメンバーの集合写真と作業中の様子を事前に撮影頂き、写真データを 12 月 8 日（木）までにご提供ください。指導されている先生から、下記連絡先まで、オンラインストレージなどの方法で提出ください。

- ①枚数：チーム集合写真2～3枚、制作風景の写真6～10枚
- ②容量：写真1枚あたり2MB以下でお願いします。
- ③その他：ピースサインはお控えください。

9. 参加費

本選参加費は参加者1名あたり1,800円とし、本選参加費は2022年11月7日（月）までに以下の口座に振り込んでください。

振込口座 / 銀行名：福岡銀行

支店名：大牟田支店（店番：691）

口座種別：普通預金

口座番号：3447067

口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション

学生課長 江崎 浩

ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション

ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ

振り込み者名は、「空間高専名の略称、空白、チーム代表者名」としてください

例) クウカンアリアケ アラオタロウ

※複数チームでまとめて振込む場合は

「クウカン アリアケ アラオタロウ ケイ2チーム」等記載ください。

振り込まれた本選参加費については、返金には応じることができません。

10. その他

- ・荷解きや梱包が簡単に済むよう工夫をしてください。
- ・模型は設置が簡易なものとしてください。
- ・運搬が困難な形状や重量、荷解き後に組み立てや補修が必要な作りにしないようにお願いします。
- ・応募作品の著作権は基本的に製作者に帰属しますが、主催者の使用を妨げないものとします。
- ・オフィシャルブックには応募作品と共に指導教員の氏名が記載されます。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意をいただいたものとします。
- ・本要項に変更があった場合は、随時デザコンホームページで連絡または本選オリエンテーション時に説明します。
- ・本選の様子は Teams（高専限定）を使用したライブ配信を行う予定です。アドレス等は別途連絡します。発表内容については著作権に十分配慮してください。
- ・新型コロナ感染予防のため、変更が生じる場合があります。ご迷惑をおかけしますがご理解、ご協力のほどよろしく申し上げます。なお、空間デザイン部門の本選開催に関して、質問等がありましたら、下記までご連絡ください。

e-mail : dc-22kukan@ga.ariake-nct.ac.jp

空間デザイン部門担当 正木

デザコン2022 in 有明 結果一覧

空間デザイン部門		
賞名	高専名	作品名
最優秀賞 (日本建築家協会会長賞)	石川高専	還りみち -暮らしを紡ぐ「みち」-
優秀賞	明石高専	神鉄八百号
優秀賞	石川高専	plot
審査員特別賞	仙台高専・名取キャンパス	和気曖昧
審査員特別賞	呉高専	響 ~“学びと遊び”、“地域住民と外国人技能実習生”の共鳴~
日建学院賞	有明高専	空博のつながり
三菱地所コミュニティ賞	米子高専	しょーにん通り ~「ただいま学校に帰りました」~
他ファイナルラウンド 進出チーム	明石高専	むすんで、ひらいて。 ~時代とともに地域にひらいていく、子どもの空間~
	仙台高専・名取キャンパス	点から道へ、道から人へ
	有明高専	WaterCycle -地元×世代で集うサードプレイス-
	都城高専	まちみるsta

第 19 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明「NEW!!」**創造デザイン部門 募集要項****【テーマ：新時代のデジタル技術へチャレンジ！ - 3D 都市モデル活用で見えてくる地方都市の未来 -】**

【課題概要】 地方都市では、人口減少や少子高齢化に伴い様々な問題が生じている。一方、国の動きを見ると、「PLATEAU」をはじめとして様々な新たなデジタル技術が開発され、これまで対応しづらかった地方都市の諸問題が解決され、持続可能なまちづくりや地域活性化に貢献していくことが期待されている。

そこで、本部門では、昨今社会の注目を集め、幅広い分野での可能性が指摘されている 3D 都市モデル整備・活用・オープンデータ化のリーディングプロジェクトである PLATEAU に注目する。そして、課題として、高専生の斬新なアイデアを活かし、このツールの積極的な使い方を考え、それによって見えてくる持続可能な地方都市の近未来像の提案を求めたい。

***** **審査委員長からのコメント** *****

3D 都市モデルやシミュレーションといった都市におけるデータ活用の王道は「最適化」です。大量のデータを集めてきて目的を設定する。それに向かって最も効率的な解を求めていくという方向性です。例えば街路ネットワークや属性情報が付いた建物の形状をデジタルツイン上で再現することによって、今後起こり得ることをある程度予測して回避することが可能になりつつあります。

いっぽうで、今後の我々の社会が直面する課題：人々の幸せやウェルビーイングを考慮した都市空間や都市生活、地域創生といった問題系はデータの最適化だけで解けるものではありません。そこには人間の想像力を働かせながら創造していく力と、「都市にデータをもちいるセンス」が重要になってきます。

みなさんは何気ない日常生活のなかにおいて、「あの子は服のセンスが良い」とか、「デザインのセンスが良い」、「音楽のセンスが良い」と話し合っていることだろうと思います。同じ意味において、都市にデータをもちいる時にも「センスの良さ」がキーとなってきます。

今回のコンペティションを通してそのようなセンスを磨いて欲しいと思います。そして最も重要なことに今回のコンペティションを是非楽しんでほしい。ウェルビーイングとは「私」の幸せだけではなく、私の周りにいる人々みんなが良い状態であるためには、どんな空間が必要なのかを考えていくことです。その為にはまず、当事者である皆さんのウェルビーイングを高める必要があると考えます。ウェルビーイングを提唱している当事者がつまらなそうにしていたり、苦しんでいたりでなかにウェルビーイングの必要性を訴えても説得力がありません。

僕も楽しみながらみなさんからの提案を審査したいと思っています。

思ってもみないようなデータの使い方、全く予想もしていない、我々の想像力を掻き立てるような提案を待っています。

1. 提案条件

- ① 持続可能^{*1}な社会や地域創生につながる「創造性^{*2}のあるサービス（こと）」の「プロセスデザイン（どのようなストーリーで地域の人々を支援するか）」を提案すること。「創造性のある製品（もの）」を提案する場合には、その「製品（もの）」がどのような仕掛けで地域振興に関与していくのかという「プロセスデザイン（ストーリー）」も併せて提案すること。特に、創造デザイン部門では、「こと」興しを重視していることから、「こと」興しの仕掛けのみに特化する「プロセスデザイン」も含まれる。「もの」のみの提案は不可とする。

*1 持続可能とは、SDG's(持続可能な開発目標)などの国際的な取組みがあるので参考にするように。

*2 創造性とは多様な人々による様々な視点からアイデアを何度も再構築することにより生まれたものを示す。

- ② 地域（人、企業・自治体・NPO・住民組織など）が抱えている課題を解決するための「こと」を興すプロセスを提案すること。地域課題を捉えるには、“現場の情報に当たる”必要があるが、その方法としては、まず仮説を立て、その仮説を検証するフィールドワーク（観察）、インタビュー調査などが考えられる。しかし、必ず当事者（問題を抱えている人）の声を直接聞き、そして共感（empathy）して問題の本質を探り当てるように心がけること。
- ③ プロセスデザインは、人（当事者）のニーズから出発し、目標とする地域像を実現するためのプロセスを提案するものである。そのプロセスの中には、地域資源や既存技術・実現可能と思われる技術・知識をどう融合させるか、地域内外の人々がどうコミュニケーションするか、といった内容が含まれる。本課題では、こうしたプロセスに高専がいかに関わるか、その役割を示すことが求められる。
- ④ 提案には、3D 都市モデル^{*3}のオープンデータである PLATEAU（プラトー）^{*4}を活用すること。活用とは、PLATEAU のデータの何を、どのように活用するかにとどまらず、PLATEAU のデータにこのようなものを追加すれば、このようなことができるようになるでも良い。

*3 3D 都市モデルとは、都市空間の形状を単に再現した幾何形状（ジオメトリ）モデルではない。都市空間に存在する建物や街路、橋梁といったオブジェクトを定義し、これに名称や用途、建設年、行政計画といった都市活動情報を付与することで、都市空間の意味を再現したセマンティクス・モデルである。このセマンティクスにより、フィジカル空間とサイバー空間の高度の融合が可能となり、都市計画立案への活用や、都市活動のシミュレーション、分析が可能となるものである。

*4 PLATEAU（プラトー）（URL：<https://www.mlit.go.jp/plateau/>）とは、2020 年から国土交通省が進める 3D 都市モデル整備・活用・オープンデータ化のプロジェクトである。都市活動のプラットフォームデータとして 3D 都市モデルを整備し、そのユースケースを創出。さらにこれをオープンデータとして公開することで、誰もが自由に都市のデータを引き出し、活用できることを目指している。現在全国で 56 都市が構築対象都市として参画している。

※ 参考

PLATEAU VIEW：PLATEAU のデータをプレビューできる、ブラウザベースの Web アプリケーション

<https://www.mlit.go.jp/plateau/app/>

G 空間情報センター：3D 都市モデルのデータセットをオープンデータとして公開

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/plateau>

※ PLATEAU（プラトー）についての説明動画は、2022 年 4 月下旬～8 月上旬

<https://nakatomo.cc.ariake-nct.ac.jp/index.php/s/FemMAZ6H5fLA9BN> に公開するので、確認しておくこと。（下記の QR コードからもアクセス可能）

また、説明動画に対する質疑（4.（1）質疑応答を参照）も踏まえ、双方向の対話方式による PLATEAU に関する Web レクチャーを 6 月 16 日（木）16:30～17:30 に実施するので、参加すること。

Web レクチャー Google Meet リンク：<https://meet.google.com/iae-wtsf-bey>



説明動画格納先 QR



Web レクチャー用 QR

2. 評価指標

提案は、次の五つの視点（地域性、自立性、創造性、影響力、実現可能性）から評価する。従って、以下の

①～⑤の内容を含むように留意すること。

① 地域性（地域の事情を踏まえた施策であること）

客観的なデータにより各地域の事情や将来性を十分に踏まえた持続可能な提案であること。

② 自立性（自立を支援する施策であること）

地域・企業・個人の自立に資するもの、「ひと」「しごと」の移転・創造を含み、特に外部人材の活用も含め「ひと」づくりにつながる提案であること。

③ 創造性（多様な人々により熟考されていること）

創造性を意識した提案であること。創造性は、多様な人々によるさまざまな視点からアイデアを何度も再構築することにより生まれるといわれている。創生事業は、一つの分野だけで解決できるものではない。そこに関係する様々な人々を巻き込んで生まれた創造性のあるアイデアを提案すること。

④ 影響力（課題解決に対する影響力）

本テーマに応募する原動力となった課題に対して、提案したアイデアがいかにパワフルで影響力がありそうかを評価する。一過性のものではなく、深く・強いアイデアを期待する。

⑤ 実現可能性（10 年後までの実現可能性が 1%でも見いだせればよい）

万人が納得できる論理的根拠に基づく提案であること。

3. 競技方法

創造デザイン部門は、予選と本選に分けて実施する。

(1) 予選

審査員は、プレゼンテーションポスター **A 1 サイズ（横向き） 1 枚** (画像データ) に基づく審査の結果から本選に出場する 10 点以内を選出する。審査結果は、デザコン 2022 in 有明公式ホームページ (<https://デザコン.com>) に公開する。審査結果は、10 月上旬に公開予定である。

(2) 本選

本選 1 日目は、予選結果連絡時のフィードバックコメントをもとにブラッシュアップしたポスターを持ち込み、ポスターセッションを行う。そのうえでワークショップを行い、さらにポスターをブラッシュアップする。本選 2 日目は、1 日目にブラッシュアップしたポスターデータを使用したプレゼンテーションを行い、審査員の評価によって賞を決定する。

- ・ 1 日目： 応募チームごとのポスターセッション、ワークショップ、ポスターのブラッシュアップ
- ・ 2 日目： プレゼンテーション、審査員講評

詳細は、10 月上旬にデザコン 2022 in 有明公式ホームページに公開される本選出場要項にて改めて説明する。

4. 応募方法等

Web による手続きとする。Web による手続きを利用するためには、Google アカウントが必要となる。なお、創造デザイン部門では、プレゼンテーションポスターの画像データファイルのアップロード（Web）による提出を求める。

(1) 質疑応答

募集要項の内容（課題内容、提案条件）に関する質疑応答は行わない。ただし、PLATEAU（プラトー）および日程・提出方法などの事務的な質疑については、下記の期間・方法にて受け付ける。PLATEAU については説明動画を視聴の上、質問をすること。それらの質問を踏まえて Web レクチャー（6月16日 16:30～）を実施する。

- ① 受付期間：2022年5月9日（月）～5月16日（月）17:00
- ② 質問方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの創造デザイン部門の「質疑受付」から行う（Google アカウント必要）。
- ③ 回答公開：6月上旬～6月中旬に、デザコン 2022 in 有明公式ホームページの創造デザイン部門の「質疑応答」にて、回答の内容を公開する。併せて PLATEAU についての回答は Web レクチャーで対応するので参加すること。

(2) 予選エントリー時の提出物

- ① プレゼンテーションポスター **A 1 サイズ（横向き）1 枚**の画像データ [予選エントリーフォーム（Web）アップロード用]
 - ・ 画像データのファイル形式は、PDF（.pdf）とすること。
 - ・ アップロード可能なファイルサイズの上限は 300MB だが、文字が読める範囲でできるだけ小さくすること。
 - ・ ファイル名は、[高専名・キャンパス名_代表者学生氏名]（「高専」「キャンパス」の文字は除く。）とする。
例) 仙台・名取_仙台太郎.pdf、有明_高専花子.pdf

(3) 予選エントリー手続き

- ① 受付期間：2022年8月24日（水）～9月7日（水）17:00
- ② 応募方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの創造デザイン部門の「エントリー」から行う（Google アカウント必要）。なお、予選エントリーフォームで入力する「提案概要」の内容は、審査に影響しない。
- ③ 受領確認：エントリー（作品）の受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。

(4) 本選への参加

本選は、2022年12月10日（土）・11日（日）に実施する。本選の詳細 [本選出場要項等] に関しては、10月上旬にデザコン 2022 in 有明公式ホームページに公開するとともに、予選通過者の指導教員にメールにて直接通知する。

(5) 参加費

- ・ 予選審査費は 1 作品につき 2,000 円とし、本選参加者は 1 名あたり 1,800 円とする。
- ・ 予選審査費は、2022年9月13日（火）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 本選参加費は、2022年11月7日（月）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 振り込み者名は、「高専名の略称、空白、担当者名」とすること。
例) センダイナトリ オオムタケンジ 例) アリアケ アラオハナヨ
- ・ 振り込まれた予選審査費および本選参加費について、いかなる場合においても返金には応じない。

【振込口座】

銀行名：福岡銀行 支店名：大牟田支店（店番：691） 口座種別：普通預金 口座番号：3447067 口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション 学生課長 江崎 浩 ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ
--

5. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生及び専攻科生とする。
- (2) チームは、2～4名で構成する。複数の高専との連合も可とする。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一人物が他部門も含め複数のチームに参加することは認めない。
- (5) 同一人物の予選へのエントリー制限について：
 デザコン 2022 では、空間デザイン部門・創造デザイン部門・AM デザイン部門の 3 部門のうち 1 部門にしか応募することはできない。ただし、この 3 部門で予選通過できなかった場合には、構造デザイン部門への応募を可とする。

6. 審査員及び審査方法

審査方法は、予選、本選ともに審査員の協議によるものとする。

委員長：吉村有司（東京大学先端科学技術研究センター特任准教授）

委員：木藤亮太（株式会社ホーホウ代表取締役・株式会社油津応援団専務取締役）

委員：内山裕弥（国土交通省都市局都市政策課）

ワークショップ・ファシリテーター：山口寛（LOCAL&DESIGN 株式会社代表取締役・津屋崎ランチ LLP 代表）

7. 表彰

- (1) 最優秀賞（文部科学大臣賞（予定））1 点
- (2) 優秀賞 2 点
- (3) 審査員特別賞 2 点

8. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。なお、予選に提出された応募作品についても公開を予定している。

9. 付記

- (1) 応募作品には他のコンテスト、コンペティションに応募したものを使用してはならない。
- (2) 応募要項に違反した場合は失格となる場合がある。

- (3) 応募作品は返却しない。
- (4) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても主催者は一切責任を持たない。
- (5) プレゼンテーション資料の作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現を用いること。

創造デザイン部門では、質問はありませんでした。

創造デザイン部門へのエントリーを検討している学生は、PLATEAU に関する説明動画を確認の上、6/16（木）16:30～PLATEAU に関する Web レクチャーに参加してください。

* 詳細は募集要項を確認してください。

創造デザイン部門 予選エントリー一覧 (訂正)2022.10.03

高専名 (キャンパス名)	氏名 (〇代表者)
釧路高専	〇庄司 樹里, アニスバヤル ヤルゴー, 高木 亨
仙台高専 名取キャンパス	〇工藤 瑞己, 佐藤 光翼, 鈴木 来和, 松田 和樹
仙台高専 名取キャンパス	〇高階 崇友, 千葉 圭吾
仙台高専 名取キャンパス	〇飯藤 仁美, 大友 歩, 亀岡 菜花, 松森 英香
仙台高専 名取キャンパス	〇西條 桜, 桃井 亜里紗
仙台高専 名取キャンパス	〇柴山 小春, 佐川 萌華, 渡邊 凜
仙台高専 名取キャンパス	〇山根 康祈, 土佐 海斗, 齊藤 一
仙台高専 名取キャンパス	〇石島 彩緑, 赤松 梨子, 菊池 百花, 國原 美空
石川高専・福井高専	〇竹 祐誠, 岩田 英華, 宮城 豪, 窪田 多久見
岐阜高専	〇馬淵 理子, 今村 奈郁
明石高専	〇大橋 すみれ, 泉 智尋, 江口 陽花, 佐藤 初音
明石高専	〇菅原 彩希, 大田 悠人, 棚谷 天音, 茶園 晴菜
明石高専	〇村田 まりん, 前田 愛侑, 正岡 紗季, 西島 誠人
明石高専	〇宮本 真実, 金澤 愛奈, 泰中 里奈, 内藤 廉哉
明石高専	〇橋本 和弥, 亀田 佳吾, 山脇 映空, 瀬尾 大地
米子高専	〇木下 小雪, 戸川 杏璃, 平野 智吏子, 山野井 海佳
米子高専	〇勝部 真生, 風早 稀仁, 森藤 壮真, 安藤 悠人
高知高専	〇武智 仁奈, 谷口 雄基, 堅田 望夢
有明高専	〇大村 龍平, 黒田 萌香, 栗屋 潤
有明高専	〇西村 美歩, 吉村 光弘, 寺本 賢太郎
都城高専	〇兒島 悠羽, 下村 すず, 宮本 沙貴, 長友 彩和

デザコン2022 創造デザイン部門 予選通過作品

2022/10/3

作品番号	作品名	高専名 (キャンパス名)
2	空き家にきーや！	明石高専
4	リボン・ジケマチ	明石高専
5	アーティスト×チビーズ ～変わりゆくニッケ社宅群～	明石高専
8	みかん農家の働き方改革 ～PLATEAUで一步先の農業～	有明高専
10	秋保電鉄時間旅行	仙台高専(名取)
11	星の絵を探しに	仙台高専(名取)
13	まちまれ おさんぽ	釧路高専
18	空き家にお引越し ～ ペットが飼える 新しい公営住宅のかたち ～	有明高専
20	土地から創るよさこい	高知高専
21	青空駐車場の育て方～周辺住民が耕す 小さな広場～	石川高専・福井高専
以上 10作品		

・全国高専デザコン 2022 in 有明 創造デザイン部門 本選出場要項

1. 本選概要

(1) テーマ

新時代のデジタル技術へチャレンジ！ -3D 都市モデル活用で見えてくる地方都市の未来-

(2) 日程

12月10日(土)、12月11日(日)

(3) 会場

大牟田文化会館 2階展示室

〒836-0843 福岡県大牟田市不知火町2丁目10-2

(4) 本選に向けて

○ 本選までの期間、審査員からのコメントを参考にブラッシュアップした提案を発表して頂きます。

2. 審査

(1) 審査方法

- プレゼンテーションおよび質疑に基づき審査を行います。
- 審査員3名の評価により、最優秀賞(文部科学大臣賞)1点、優秀賞2点、審査員特別賞2点、企業賞(クボタ賞)1点を選出します。

(2) 審査委員

- 委員長：吉村有司(東京大学先端科学技術研究センター特任准教授)
- 委員：木藤亮太(株式会社ホーホウ代表取締役・株式会社油津応援団専務取締役)
- 委員：内山裕弥(国土交通省都市局都市政策課)
- ワークショップ・ファシリテーター：山口覚(LOCAL&DESIGN 株式会社代表取締役・津屋崎ブランチ LLP 代表)

(3) 審査指標

- 予選審査での5つの指標(地域性、自立性、創造性、影響力、実現・持続可能性)に、プレゼンテーションを加え、6つの指標で評価します。

3. 本選のスケジュール

(1) 本選タイムテーブル

- 12月10日(土)
 - 9:30~10:00/受付・作品展示
 - 10:00~10:20/オリエンテーション
 - 10:20~11:30/ポスターセッション
 - 11:30~12:30/昼休憩
 - 12:30~13:00/開会式
 - 13:10~15:00/ワークショップ

15：00～15：30／意見まとめ

15：30～17：00／ブラッシュアップ

○ 12月11日（日）

9：00～ 9：10／オリエンテーション

9：10～11：30／プレゼンテーション

11：30～12：30／審査 ※公開パートと非公開パートがあります

12：30～13：30／昼休憩

13：30～13：50／審査結果発表・総評

14：00～15：00／閉会式

（2）12/10(土)10:20 - 11:30 ポスターセッション

- 審査員への発表持ち時間は1チーム当たり、発表3分 + 質疑応答3分+入替1分です。

<ポスターセッション>

- 各チームのブースには、1800 mm (W) × 600 mm (D) × 725 mm (H) のテーブル、1800 mm (W) × 2000 mm (H) の衝立を用意します。テーブルもしくは衝立には、模型やポスター等を展示することができます。



写真：テーブルと衝立のイメージ

（3）12/10(土)13:10 - 15:30 ワークショップ・意見まとめ

- ワークショップでは、各チーム間のアイデア共有を行ったあと、チーム内で意見をまとめます。その後、各自の提案のブラッシュアップ作業に入ります。
- ワークショップのグループメンバーの割振りは運営者が行います。

（4）12/11(日)9:10 - 11:30 プレゼンテーション

- 審査員への発表持ち時間は1チーム当たり、発表6分 + ディスカッション7分+入替1分です。
- <プレゼンテーション>
- プロジェクタ（HDMI 接続）1台、スクリーン1台で審査員に対して提案の説明を行います。またプロジェクタには、各自持参した PC（HDMI 接続コネクタを有すること）を接続し、ポスターの内容、スライド、写真や動画などを投影し、プレゼンテーションを行います。

4. ポスターおよび展示物

- 本選のポスターセッションで使用するポスターは、各チームで持参していただいたポスターを使用します。12/10 受付後、10:00 までにチームブースにポスター、模型等の展示の準備をしてください。
- 模型等の郵送が必要な場合は、12月9日（金）12:00～17:00 範囲内着の指定で下記までご郵送下さい。なお、模型の梱包については輸送時に破損等のないように万全を期してください。

住所：〒836-0843 福岡県大牟田市不知火町2丁目10-2
宛名：大牟田文化会館 2階展示室 デザコン 創造デザイン部門
依頼主名：高専名・作品番号・代表者名

5. 参加費

- 本選参加費は参加者1名あたり1,800円とし、本選参加費は2022年11月7日(月)までに以下の口座に振り込んでください。
振込口座 / 銀行名：福岡銀行
支店名：大牟田支店(店番：691)
口座種別：普通預金
口座番号：3447067
口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション
学生課長 江崎 浩
ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション
ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ
- 振り込み者名は、「創造高専名の略称、空白、代表者名」としてください
例) ソウゾウアリアケ アラオタロウ
※ 複数チームでまとめて振込む場合は「ソウゾウアリアケ アラオタロウ ケイ2チーム」等記載ください。
- 振り込まれた本選参加費については、返金には応じることができません。

6. その他

- 応募作品の著作権は基本的に製作者に帰属しますが、主催者の使用を妨げないものとします。
- オフィシャルブックには応募作品と共に指導教員の氏名が記載されます。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意をいただいたものとします。
- 本要項に変更があった場合は、随時デザコンホームページで連絡または本選オリエンテーション時に説明します。
- 本選の様子はTeamsを使用したライブ配信を行う予定です。アドレス等は別途連絡します。発表内容については著作権に十分配慮してください。

7. 問い合わせ先

有明工業高等専門学校 創造デザイン担当事務局 e-mail: dc-22sozo@ga.ariake-nct.ac.jp
事務的な質問のみ受け付けます。課題内容の質疑は受け付けません。

デザコン2022 in 有明 結果一覧

創造デザイン部門		
賞名	高専名	作品名
最優秀賞 (文部科学大臣賞)	高知高専	まちから創るよさこい
優秀賞	有明高専	みかん農家の働き方改革 ～PLATEAUで一步先の農業～
優秀賞	明石高専	空き家にきーや！
審査員特別賞	仙台高専・名取キャンパス	星の絵を探しに
審査員特別賞	石川高専・福井高専	青空駐車場の育て方 ～周辺住民が耕す 小さな広場～
クボタ賞	有明高専	空き家にお引越し ～ペットと歩き、花を育てる新しい公営住宅のかたち～

第19回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明「NEW!!」

AM デザイン部門 募集要項

【テーマ：新しい生活様式を豊かにしよう！】

【課題概要】 有明大会の AM デザインでは、『アフター○○の新しい生活様式を豊かにするアイテム』の開発をテーマとします。近年の様々な出来事により、わたしたちは新しい生活様式を送ることを求められています。しかし、新しい生活様式は、誰かに押しつけられるものではなく、それ自体のスマートさに惹かれて定着していくものだと思います。そこで、今年度の課題は、新しい生活様式を豊かにする新しいアイテムのアイデアを募集します。現在既に謳われている新しい生活様式だけではなく、今の見方によって、新しい生活様式は無限に広がるものだと考えます。3D プリンターの特長である『設計から実物への短期化』、『一体成形』、『切削造形ではなしえない造形』、そして『一品生産』ということを活用しながら、新しい未来を提案してください。

テーマへの取り組みを通じ、参加学生全員が豊かな未来への“道しるべ”となってくれることを期待します。

1. 提案および作品の条件

- ① 作品は「新しい生活様式を豊かにするアイテム」とします。
- ② 作品の部品または、作品の製作工程に必要な部品を 3D プリンター技術により作成してください。実物の機器あるいは模型を製作し、実際に稼動するもの（あるいは稼動状態を模擬できるもの）を示してください。実物スケールである必要はありません。
- ③ 可能な限り、会場にて実演を行ってください。会場で実演できない場合は、ビデオ撮影での対応や、動作の代替物（例えば水で動作するものをビーズでの動作に置き換える等）を用いた実演をしていただいても構いません。
- ④ 3D プリンターで用いる原材料の種類は問いません。また、エントリーシート提出時に想定した原材料と提出作品に用いる原材料を必ずしも一致させる必要はありません。
- ⑤ 強度計算等の計算を行い、実製品として実現可能性を示してください。実製品を想定する際には一般的な金属（鉄、アルミ、ステンレス等）を使用することを想定しても構いません。
- ⑥ 作品の部品のうち、ボルトなどのネジ類、バネ類、ゴム類については作品の主要部品に含めず、市販品の使用を認めます。また、市販の電子デバイスモジュール等についても使用を認めます。
- ⑦ 特許性がある場合は、必ず大会までに特許の申請を開始しておいてください。また、提案内容が既存特許への抵触がある場合は、事前に特許検索などにより提案者および指導教員が責任をもって確認し、提案書に提示してください。
- ⑧ 現状の法令等との適合度は問いません。

2. 評価指標

提案は、次の 4 つの視点で評価します。従って、以下の①～④の内容を含むように留意してください。ただし、その配分は非公開とし、審査員に委ねます。

① 3Dプリンターの特性および必然性

3Dプリンターは、これまでの切削加工、射出成形と異なり、切削工具や金型が不要な成型、加工技術である。また、現在の使用用途もホビー（一品生産）から宇宙開発（軽量化、複雑な一体成形）まで広く、対応している成形機も様々なものがある。単に造形できるだけでなく、切削加工、射出成形と差別化されていること。

② 実現可能性（10年後までの実現可能性が1%でも見いだせば良い）

実現性は、今すぐ実現、実行できるものでなくても良いが、このアイデアが必要であることを、論理的に説明していること求める。

③ 独自性

アイデアは応募者のオリジナルであること。既存の製品などの改善、改良も良いが、オリジナル性は低いと審査することもある。応募作品のどの点に独自性があるかをアピールすること。

④ 社会への影響力

アイデアを用いる、採用することによって、現在の何が、何をして、どのように変わるのかを、論理的に説明していることを求める。多数派の人を対象とせず、少数派の視点にたって説明をしてもよい。

3. 競技方法

大会前の予選と大会当日の本選に分けて実施する。

3.1 予選

① 2章に記す「評価指標」および、6.3節に記す「審査基準」の(a)～(c)に基づき、提出されたエントリーシートの内容を審査・評価し、本選に出場するチームを選出する。

② 審査結果は、10月上旬にデザコン 2022in 有明公式ホームページ (<https://デザコン.com/>) にて公開するほか、予選通過をした各チームの指導教員へ e-mail により連絡する。

3.2 本選

口頭発表とポスター(実演)発表については、以下の通りとする。予選から改良した点や工夫した点があれば、それらの点を含めて提示すること。ただし、予選でのアイデアと本選でのアイデアが本質的に異なることは認められない。なお、発表時間などの詳細については10月中旬に公表する。

(1)本選開催日：12月10日(土)、11日(日)

(2)口頭発表

パワーポイントを用いて提案するアイテムについて発表し、審査員との質疑応答を行う。

(3)ポスター(実演)発表

ポスターや作品を用いて提案するアイテムについて発表し、審査員との質疑応答を行う。

● 必須の展示物

- ・ポスター1枚 (A1版・縦置き、印刷物を持参すること)
- ・作品 (3Dプリンターを活用した造形物)

● 任意の展示物※以下の展示を許可する

- ・補助的な説明用のポスター(A1版・縦置き1枚まで)
- ・ノートパソコンやDVDプレーヤ等によるプレゼンテーション

●注記

- ・作品等を展示するスペースは、1 チームあたり、テーブルの幅 900mm×奥行き 600mm（予定：本選出場要項に確定した情報を記載する）の範囲とする。また、作品の最大高さを 1500mm までとする。ポスター発表で使用するノートパソコンや DVD プレイヤ等の機材は、各チームで用意することとする。
- ・口頭発表で用いるパワーポイントファイル（.ppt あるいは.pptx）と、必須ポスター1 枚の PDF 形式ファイル（.pdf）を提出すること。提出方法などの詳細については、10 月中旬までに連絡する。

4. 応募方法

Web による手続きとする。

4.1 質疑応答

募集要項の内容（提案条件、競技方法等）に関する質疑応答を下記の期間・方法にて受け付ける。

- ① 受付期間：2022 年 4 月 26 日（火）～ 5 月 10 日（火）17:00
- ② 質問方法：デザコン 2022 in 有明公式ホームページの AM 部門の「質疑受付」から行う（Google アカウントが必要）。
- ③ 回答公開：5 月下旬に、デザコン 2022 in 有明公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）にて、回答の内容を公開する。

4.2 予選エントリー手続き

(1) 予選エントリー時の提出物（AM デザイン部門_エントリーシート）

- ・デザコン 2022 in 有明公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）の様式集から、「AM デザイン部門_エントリーシート」をダウンロードし、必要事項を記入したうえで PDF（.pdf）形式のデータファイルに変換する。
- ・アップロード可能なファイルサイズの上限は 300MB であるが、ファイルサイズはできるだけ小さくすること。
- ・ファイル名は、[高専名・キャンパス名_代表者学生氏名]（「高専」「キャンパス」の文字は除く。）とする。
例）有明_有明太郎.pdf または 仙台_名取_仙台太郎.pdf

(2) エントリー方法

- ・受付期間：2022 年 8 月 24 日（水）～2022 年 9 月 7 日（水）17:00
- ・応募方法：デザコン 2022in 有明公式ホームページの AM 部門の「エントリー」から行う（Google アカウントが必要）。なお、アップロードされたエントリーシートは、審査資料として使用される。
- ・受領確認：エントリー(作品)の受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレス内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。エントリー漏れがあった場合には、指導教員が下記メールアドレス宛に 9 月 8 日（木）までに連絡すること。

有明高等専門学校 AM デザイン部門事務局 e-mail : dc-22am@ga.ariake-nct.ac.jp
--

4.3 本選への参加

予選の審査結果は、10 月上旬までにデザコン 2022 in 有明公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）で公開するとともに、予選通過者の指導教員に e-mail で通知する。また、本選の詳細 [本選出場要項] についても、10 月中旬までに、審査結果と同様の方法で、公開および通知する。

4.4 参加費

- ・ 予選審査費は 1 作品につき 2,000 円とし、本選参加費は 1 名あたり 1,800 円とする。
- ・ 予選審査費は、2022 年 9 月 13 日（火）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 本選参加費は、2022 年 11 月 7 日（月）までに以下の口座に振り込むこと。
- ・ 振り込み者名は、「高専名の略称、空白、担当者名」とすること。
例) センダイナトリ オオムタケンジ
例) アリアケ アラオハナヨ
- ・ 振り込まれた予選審査費および本選参加費について、いかなる場合も返金には応じない。

【振込口座】

銀行名	: 福岡銀行
支店名	: 大牟田支店(店番:691)
口座種別	: 普通預金
口座番号	: 3447067
口座名義	: 全国高等専門学校デザインコンペティション 学生課長 江崎 浩 ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ

5. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生及び専攻科生とする。
- (2) チームは、1～4 名で構成する。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一部門で同一人物が複数のチームに参加することは認めない。
- (5) 同一人物の予選へのエントリー制限について：
デザコン 2022 in 有明では、空間デザイン部門・創造デザイン部門・AM デザイン部門の 3 部門のうち 1 部門にしか応募することはできない。ただし、この 3 部門で予選通過できなかった場合には、構造デザイン部門への応募を可とする。

6. 審査員、審査方法および審査基準

6.1 審査員

- 委員長：浜野 慶一（浜野製作所 代表取締役 CEO）
委員：大淵 慶史（熊本大学大学院先端科学研究部 准教授）
委員：川和田 守（経済産業省 製造産業局 素形材産業室）

6.2 審査方法

予選・本選とも、審査は、審査員による採点と協議により行う。

6.3 審査基準

(1) 審査員による審査

審査員 3 名が以下の審査基準と協議により審査を行う。

審査基準

(a)新規性・独創性・活用性【配点 15 点×3 名=45 点】

現状での社会問題の解決、あるいは生活利便性が向上するアイデアであるか、さらに新規性・独創性があるかを審査・評価する。新しさ・驚き・ときめき・感動・楽しさを感じさせるアイデアを提示すること。

(b)技術的課題の解決・実用性【配点 15 点×3 名=45 点】

技術的課題の解決および作品の作動状況について審査・評価する。技術的課題の解決は可能な限り定量的に評価した結果を提示すること。また、作品の動作状況を確認し、アイデアを実現できているかについて審査・評価する。

(c)プレゼンテーション力【配点 10 点×3 名=30 点】

口頭発表とポスター発表について、内容および構成が優れているか、スライドやポスターの見やすさ、発表者の声、態度などが適切かを審査・評価する。

(2) 学生相互による投票

AMデザイン部門本選に出場するチームは、持ち点 1 点を、自らの作品以外で最も良い作品に投票する。得票数は審査員による審査点に加算する。

7. 表彰

- (1) 最優秀賞（経済産業大臣賞（予定）） 1 点
 - (2) 優秀賞 2 点
 - (3) 審査員特別賞 2 点
-

8. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に帰属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには、応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者の申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。本選で提示されたポスターは原則的に公開を予定している。

9. 付記

- (1) 応募作品は他のコンテスト、コンペティションに応募していないものとする。
- (2) 募集要項に違反した場合は失格となる場合がある。
- (3) 応募作品の取り扱いについて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても主催者は一切責任を持たない。
- (4) 発表用資料および予選通過者の作品紹介にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現を行うこととする。
- (5) 応募要項の更新をデザコン 2022 in 有明公式ホームページ上で随時行うので、適宜確認すること。

AM デザイン部門

☆質疑に対する回答

No.	質問校	質問	回答
1	神戸市立高専	プレゼンテーションで、雰囲気を出すために BGM を流す事は可能ですか？	審査に影響しませんが、雰囲気を作るという試みで BGM を使用することは許可します。
2	東京都立品川	使用できる予算に上限はあるか？	特に制限はありません。
3	東京都立品川	デザイン・製作した品物を、コンテスト前およびコンテスト後に別の機会（講演会や展示会）で発表・展示することは可能か？	他のコンテストに作品がダブルエントリーすることは問題がありますが、お披露目ということであれば問題ないと思います。
4	東京都立品川	項目 1-②で記載されている「稼働するもの」とはアクチュエータ（モータ、エアシリンダ等）を絶対的に搭載しないと認められないのか？LED 点灯や画面表示なども広く含まれるのか？	「稼働するもの」言葉は動くということを表現しているのではなく、機能することを表しています。LED 点灯や画面表示なども含まれます。
5	東京都立品川	項目 1-⑥に関して、電子デバイスモジュールの部品接続および回路構成のための電子・電気部品も利用可能な部品として認められるか？	特に制限はありません。
6	東京都立品川	品物の仕様実現のために特定の IC 部品が必要な場合、自作のデバイスモジュールを製作・利用することは可能か？	特に制限はありません。
7	東京都立品川	本選の口頭発表について、発表時間および質問時間の目安はどのように設定しているのか？	詳細は 10 月中旬に公表しますが、発表・質問の総時間が 1 チームあたり 20 分～30 分になると考えています。
8	東京都立品川	本選のポスター展示スペースに PC 用のモニターを持参・設置することは可能か？	準備されたスペース内であれば、特に制限はありません。
9	旭川	“募集要項にはボルトなどのネジ類、バネ類、ゴム類等を使用しても問題ないように読み取れますが、以下のような部品あるいは材料を使用してもよろしいでしょうか。 (1) ベアリング等の規格品	(1), (2) とともに問題ありません。

	(2)EVA 樹脂などの柔軟性と弾力性があり、衝撃吸収材として使われる樹脂 ”	
--	--	--

AMデザイン部門 予選エントリー一覧

高専名（キャンパス名）	氏名（〇代表者）
苫小牧高専	〇松本 昇磨
旭川高専	〇月村 玲, 遠藤 碧人, 廣瀬 諒太, 山口 大智
仙台高専 名取キャンパス	〇白田 陽彩人, 猪股 暖生, 佐々 優華
鶴岡高専	〇阿部 拓夢, 福定 隼也, 佐藤 愛斗, 秋浜 正太郎
鶴岡高専	〇細谷 希, 小野寺 泰河, 國井 蘭, 高橋 彬
鶴岡高専	〇保科 来海, 古城 駟, 大場 一世, 岩淵 康平
鶴岡高専	〇渋谷 優貴, 奥山 流唯, 阿部 嵐, 工藤 瑛奈
茨城高専	〇小川 大翔
東京都立産業技術 品川キャンパス	〇今井 経太, 上田 晃大, 上田 茉莉奈, 岡田 爽汰
石川高専	〇寺内 望未
福井高専	〇宮越 葵, 廣部 陸, 山田 恵梨香
福井高専	〇谷本 大空, 大澤 介成, 駒野 琴音, 駒野 真琴
福井高専	〇千京 律斗, 小田 和輝, 齊藤 千尋
福井高専	〇山本 佳来, 山野 宗馬, 吉森 洋子
岐阜高専	〇河合 剛毅, 西村 夢翔, 樋口 海斗, 大前 奏太
岐阜高専	〇瀬 仁一郎, 長尾 優汰
鳥羽商船高専	〇高田 史哉, 井村 菜乃花, 中川 匡, 濱口 祐志
奈良高専	〇漆原 快, 丹羽 瞭太, 石村 涼介, 則永 悠仁
奈良高専	〇檜垣 滯, 井原 実咲, 西 彦樹, 山口 璃桜
神戸市立高専	〇一色 潤, 小林 歩乃果, 森口 輝一
神戸市立高専	〇橋立 里玖, 坂本 晴臣, 奥村 翔太, 内海 裕稀
津山高専	〇渡邊 雪菜, 高石 若葉
弓削商船高専	〇細矢 寧々, 瀬野 舞子, 野上 竜希, 菅野 琴路
弓削商船高専	〇奥田 晟二, 柏原 悠希, 秋山 康輔, 福本 航右

作品番号	作品名	高専名 (キャンパス名)
(2)	ポンツーン・ポニックス	弓削商船
(8)	ショウドクリップ	岐阜
(9)	沿岸の光る諜報員 おシエル君	鳥羽商船
(11)	タッチでエンジョイ pin screen	福井
(14)	Comfy Cast	神戸市立
(15)	廻滑車輪 アクロレス	旭川
(16)	目守くん	鶴岡
(17)	No knock No stress	仙台 (名取)
(24)	ホジ保持ホジー	都立産技 (品川)
以上 9作品		

全国高専デザコン2022 in 有明 AMデザイン部門 本選出場要項

1. 開催日

2022年12月10日(土)、11日(日)

2. 本選概要

本選では審査員からのブラッシュアップコメントを参照し、予選時の提案からより具体的に内容を深めた作品を提出すると共に、パワーポイントなどを使用してプレゼンテーションをしていただきます。さらに、会場にてポスターや提案する作品を用いた説明・実演および審査員とのディスカッションを行います。

3. 本選までにやるべきこと

下記5点のご協力をお願いします。

1. 実働(または実働を模擬する事)が可能な作品の製作
2. プレゼンテーションの準備
3. ポスター1枚(A1版・縦)の印刷
4. 集合写真・製作作業の様子を捉えた写真の撮影
5. プレゼンテーション資料(.ppt/.pptx)・ポスター(.pdf)データ・4の写真
を格納したCD/DVD-ROMの作成

4. 審査方法

全てのAMデザイン部門本選出場チームが口頭発表・質疑応答およびディスカッションを行い、審査員による審査から総合的に評価を行う。

(1) 審査員による審査

審査員3名が以下の審査基準と協議により審査を行う。

審査基準

(a) 新規性・独創性・活用性【配点15点×3名=45点】

現状での社会問題の解決、あるいは生活利便性が向上するアイデアであるか、さらに新規性・独創性があるかを審査・評価する。新しさ・驚き・ときめき・感動・楽しさを感じさせるアイデアを提示すること。

(b) 技術的課題の解決・実用性【配点15点×3名=45点】

技術的課題の解決および作品の作動状況について審査・評価する。技術的課題の解決は可能な限り定量的に評価した結果を提示すること。また、作品の動作状況を確認し、アイデアを実現できているかについて審査・評価する。

(c) プレゼンテーション力【配点10点×3名=30点】

口頭発表とポスター発表(ディスカッション)について、内容および構成が優れているか、スライドやポスターの見やすさ、発表者の声、態度などが適切かを審査・評価する。

(2) 学生相互による投票

AMデザイン部門本選に出場するチームは、持ち点1点を自らの作品以外で最も良い作品に投票する。得票による得点は審査員による審査点に加算する。

5. 審査員

委員長：浜野 慶一（浜野製作所 代表取締役 CEO）

委員：大淵 慶史（熊本大学 大学院先端科学研究部機械数理工学系 准教授）

委員：川和田 守（経済産業省製造産業局素形材産業室 室長補佐）

6. 概略日程

12月10日(土)	12月11日(日)
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:10 オリエンテーション
10:00～10:20 オリエンテーション	9:10～11:50 プレゼンテーション (11:50～13:30 適宜昼食)
10:20～12:20 作品準備・ポスター掲示 →作品の写真撮影 (10:20～12:20 適宜昼食)	11:50～12:30 審査・集計
12:30～13:00 開会式（大ホール）	13:30～13:50 講評
13:10～16:30 ディスカッション	14:00～15:00 表彰式・閉会式(大ホール)
16:30～17:00 技術交流	

7. 詳細

7. 1 受付（12月10日(土) 9:30～10:00）

口頭発表の順番は受付時にくじ引きを行い決定します。順番はオリエンテーションでお知らせします。また、口頭発表で用いるパワーポイントファイル(.ppt あるいは .pptx)と、必須のポスター1枚のPDF形式ファイル (.pdf)、および集合写真・作業風景の写真を格納したCD-ROMまたはDVD-ROMを提出してください。

7. 2 作品およびポスターなどの展示準備（12月10日(土) 受付後）

受付終了後、作品展示およびポスター掲示を行ってください。また準備が整ったチームから、オフィシャルブック掲載用の写真撮影、および持参されたPC等とプロジェクタとの接続確認を行ってください。

- 必須の展示物
 - ・ポスター1枚(A1版・縦置き、印刷物を持参すること)
 - ・作品(3Dプリンタを活用した造形物)
- 任意の展示物 ※以下の展示を許可する。
 - ・補助的な説明用のポスター(A1版・縦置き1枚まで)
 - ・ノートパソコンやDVDプレイヤー等によるプレゼンテーション
- 注記

作品等を展示するスペースは、1チームあたり、テーブルの幅900mm×奥行き600mmの範囲とします。また、作品の最大高さを1500mmまでとします。ディスカッションで説明に使用するノートパソコンやDVDプレイヤー等の機材は、各チームで用意してください。

7. 3 オリエンテーション（12月10日(土) 10:00～10:20）

オリエンテーションに不参加のチームは失格になる場合がありますので、メンバー全員が必ず出席して下さい。また、大会当日、事務局から本要項を配布しませんので、事前に各自で本要項を印刷するなど準備して下さい。オリエンテーションでは、以下の内容を実施します。

- a) 本選実施方法の説明と諸注意（当日変更内容を含む可能性があります）
- b) 口頭発表の発表順の発表

7. 4 審査員による質疑(ディスカッション) (12月10日(土)13:10~16:30)

各チームを3名の審査員が巡回し、全ての作品の審査を行います。各チームは、パワーポイント等やポスターを用いた説明、および作品の実演を行い、質疑に答えて下さい。

- (a) 3名の審査員は、1チーム10~15分程度で口頭発表の順に審査に回ります。
説明者が会場にいない場合は、予告なく失格とする可能性があります。
- (b) 説明者の人数等は任意です。ただし、チームの登録メンバーに限ります。

7. 5 口頭発表 (12月11日(日) 9:10~11:50)

口頭発表で使用するノート PC 等 (HDMI コネクタでプロジェクタに接続できること) は各チームで用意して下さい。口頭発表は表1に従って進行します。PowerPoint 等を用いて発表して下さい。特に、各評価基準について簡潔に説明して下さい。

表1 口頭発表タイムテーブル

9:10 ~ 9:20	実施方法の確認と諸注意
9:20 ~ 9:35	口頭発表 No. 1
9:35 ~ 9:50	口頭発表 No. 2
9:50 ~ 10:05	口頭発表 No. 3
10:05 ~ 10:20	口頭発表 No. 4
10:20 ~ 10:35	口頭発表 No. 5
10:35 ~ 10:50	休憩
10:50 ~ 11:05	口頭発表 No. 6
11:05 ~ 11:20	口頭発表 No. 7
11:20 ~ 11:35	口頭発表 No. 8
11:35 ~ 11:50	口頭発表 No. 9

※時刻は目安です。当日の状況により変更の可能性があります。

- (a) 1チームの発表時間9分、質疑応答6分の合計15分です。呼び鈴は発表開始から7分で1回、9分で2回の順に鳴ります。2回目の呼び鈴を目処に発表を終えられるように準備してください。
- (b) 提案する「作品」を説明する目的に限り、発表内に作品を用いた実演の映像の再生を含んでも構いません。ただし、危険行為および人を不快に感じさせる可能性のある行為や内容の全てを禁止します。禁止事項に抵触すると判断した時点で、発表を強制終了し、予告無しで失格にする可能性がありますので注意して下さい。
- (c) チームの登録メンバーであれば、発表時の参加者の人数は任意ですが、登録メンバー以外の参加や実演の全てを禁止します。

7. 6 審査員総評（12月11日(日)13:30～13:50）

- (a) 後述の「8. 表彰」に記載された各賞の選定は、「4. 審査方法」に記載の通り、審査員による審査の総合点数、および参加チームの投票数を基に審査員3名により協議され最終決定されます。
- (b) 結果発表は、総評もしくは閉会式で行います。

8. 表彰

- ・最優秀賞（経済産業大臣賞）1点
- ・優秀賞 2点
- ・審査員特別賞 2点

9. 注意事項

- (a) 特許性がある場合は、必ず大会までに特許の申請を開始しておいてください。また提案内容が既存特許への抵触がある場合は、事前に特許検索などにより提案者および指導教員が責任をもって確認し、提案書に提示してください。
- (b) 予選でのアイデアと本選でのアイデアが本質的に異なることは認められません。そのような場合、判明した時点で予告なく失格とします。
- (c) 本選当日までに本選要項などが変更される可能性があります。本選前に再度確認をお願いします。

10. 参加費

10. 1 手続き

- ・本選参加費は、参加者1名あたり 1,800 円とする。
- ・本選参加費は、2022年11月7日(月)までに以下の口座に振り込むこと。
- ・振り込み者名は、「AM高専名の略称、空白、担当者名」とすること。
例) エーエムアリアケ アリアケタロウ
例) エーエムセンダイナトリ アオバタロウ
- ・振り込まれた予選審査費および本選参加費について、いかなる場合も返金には応じません。

【振込口座】

銀行名：福岡銀行
支店名：大牟田支店（店番：691）
口座種別：普通預金
口座番号：3447067
口座名義：全国高等専門学校デザインコンペティション 学生課長 江崎 浩 ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティション ガクセイカチョウ エサキ ヒロシ

11. 集合写真・製作風景の写真データの事前提出

本選に出場するチームメンバーの集合写真（2枚以上）及び作業中の様子（6枚以上）を撮影していただき、写真データ（1枚2MB程度）をご提供ください。これらの写真はオフィシャルブックに掲載されます。口頭発表で用いるパワーポイントファイルおよびポスターファイルと共にCD-ROMまたはDVD-ROMに格納して受付時に提出してください。

- ・枚数は指定しません。
- ・ピースサインはお控えください。

1.2. 作品の送付

①ポスターおよび作品を送付する場合は、下記の住所へ【12月9日（金）12:00～17:00】の間に到着するよう、日時指定をしてお送りください。

<宛先>

〒836-0843 福岡県大牟田市不知火町2丁目10-2

大牟田文化会館 3F 研修室 デザコン AM デザイン部門

<依頼主名の表記>

高専名・エントリーNo.・代表者氏名

【注意】作品の梱包については輸送時に破損等のないように万全を期してください。

②作品等の取り扱いについて

ポスターの展示、作品の開封と展示台への設置や審査後の梱包と返送作業等については、原則各学校の参加教員・学生で行なってください。

③模型のオフィシャルブック用写真撮影について

展示する模型は、オフィシャルブック用に写真撮影を予定しています。12月10日（土）の午前中に写真撮影する予定です。

1.3. 問い合わせ先

有明工業高等専門学校 AM デザイン担当事務局 e-mail: dc-22am@ga.ariake-nct.ac.jp
事務的な質問のみ受け付けます。課題内容の質疑は受け付けません。

デザコン2022 in 有明 結果一覧

AMデザイン部門		
賞名	高専名	作品名
最優秀賞 (経済産業大臣賞)	旭川高専	廻滑車輪 アクロレス
優秀賞	都立産技高専・品川キャンパス	ホジ保持ホジー
優秀賞	仙台高専・名取キャンパス	No knock No stress
審査員特別賞	岐阜高専	ショウドクリップ
審査員特別賞	神戸市立高専	Comfy Cast

- 応募者の氏名・所属の記入は認めない。
 - 紙の素材、質感については問わないが、立体物を貼ることは認めない。
- ② 応募作品(A3 判ポスター)の画像データファイル
- 応募作品から、ファイル形式 PDF(.pdf)あるいは JPEG(.jpg)のアップロード用画像データを作成する。
 - アップロード可能なファイルサイズの上限は 300MB となっているが、ファイルサイズはできるだけ小さくすること。
 - ファイル名は、[高専名・キャンパス名_代表者学生氏名]（「高専」「キャンパス」の文字は除く。）とする。

例) 仙台・名取_仙台太郎.pdf 有明_有明太郎.pdf

3.3 エントリー手続き

- ・受付期間: 2022年10月21日(金)～10月27日(木)17:00
- ・作品提出: 2022年10月31日(月)必着
- ・応募方法: デザコン 2022 in 有明公式ホームページ(<https://デザコン.com/>)のプレデザコン部門の「エントリー」から行き、②の[応募作品(A3 判ポスター)の画像データファイル]をアップロードする(要 Google アカウント)。
①の[A3 判ポスター]は下記の提出先に郵送(必着)する。なお、A3 版ポスターについては、パネル化せず、折り曲げずに提出すること。
※アップロードされた画像データは、審査員に事前配布する資料に収められ、審査にも用いられることを承諾すること。

[A3 判ポスター]提出先:
〒830-8585 福岡県大牟田市東萩尾町 150 有明工業高等専門学校
第19回全国高等専門学校デザインコンペティション
プレデザコン部門担当事務局

プレデザコン部門担当事務局 e-mail:dc-22pre@ga.ariake-nct.ac.jp

- ・受領確認: エントリーの受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスは入力ミスがないように十分確認すること。
A3 版ポスター等の受領確認については、プレデザコン部門担当事務局より、各高専の学生課宛に e-mail で連絡する。
- ・参加費は、徴収しない。

4. 応募資格

「共通事項」に記載する。

5. 審査方法

会場に展示された作品を来場者が見て投票しその点数で順位を決定する。なお投票できる持ち点は、来場者種により異なり、連動する各部門の審査員(10点)、協賛企業(5点)、高専教職員・高専学生・一般来場者(1点)である。なお、この審査方法は状況によって変更される場合がある。

6. 表彰

「共通事項」に記載する。

7. 著作権等

「共通事項」に記載する。

8. 付記

「共通事項」に記載する。

創造デザインフィールド

1. 提案条件

2022年度の舞鶴大会で使用するトートバックのデザインを募集する。次回開催地である京都府舞鶴市の歴史・文化・環境をふまえたデザインを募集する。デザインにあたっての制限を以下にまとめる。

- ・ トートバッグの寸法は、縦 380mm、横 330mm 程度とする。
- ・ 表面のみにデザインを印刷する。
- ・ 余白なども考慮の上、デザインの配置まで提案すること。
- ・ 使用できる色は 1 色、トートバッグの色は白系または黒系とする。
- ・ 縦 15mm、横 60mm 程度の大きさの協賛企業のロゴの位置を指定すること。
- ・ デザインの意図、コンセプトがわかる説明文を記入すること。
- ・ 手書きでもかまわない。ただし、トートバックのデザインとして採用された場合、最終デザイン(印刷されるデザイン)は、手書きのままとするのか、あるいは、デジタル的な処理をするのか、作者との打ち合せを行い決定する。
- ・ 大会で用いる最終デザイン(印刷されるデザイン)を決定するにあたり、作者の確認を取ったうえで、その意図を十分に汲み取り、デザインの修正や変更を依頼する場合がある。

2. 競技方法

空間デザインフィールドと同じ要領とする。

3. 応募方法等

Web 及び郵送による手続きとする。今回も Google アカウントは必要。

3.1 質疑応答

「共通事項」に記載する。

3.2 エントリー時の提出物

空間デザインフィールドと同じ要領とする。

3.3 エントリー手続き

空間デザインフィールドと同じ要領とする。

4. 応募資格

「共通事項」に記載する。

5. 審査方法

空間デザインフィールドと同じ要領とする。

6. 表彰

「共通事項」に記載する。

7. 著作権等

「共通事項」に記載する。

AM デザインフィールド

1. 提案条件

3D プリンターで造形したシェルターに 200g の分銅をのせ、1m 自由落下させたときの落下時の衝撃力をロードセルで測定し、測定値によって順位付けを行う。詳細は、「プレデザコン部門 AM デザインフィールド競技要項」を参照する。

2. 競技方法

大会開催に先立ち、プレデザコン部門 AM フィールド担当者が、「1. 提案条件」で示した方法により落下試験を行い、その結果に基づいて順位を決定する。なお、落下試験の様子は撮影し、大会会場にて映像を公開する。

3. 応募方法等

なお、Web による手続きを利用するためには、Google アカウントが必要となる。

3.1 質疑応答

「共通事項」に記載する。

3.2 エントリー時の提出物

- ① 作品「3D プリンターで造形したシェルター」
 - ・「1. 提案条件」にしたがって、3D プリンターでシェルターを作製する。
 - ・※作品には上下が分かるように上側に★マークを記入すること。
- ② 取扱説明書
 - ・デザコン 2022 in 有明公式ホームページ(<https://デザコン.com/>)の様式集から、「プレデザコン部門-AM フィールド-取扱説明書フォーマット」をダウンロードし、必要事項を記入したうえで PDF(.pdf)形式のデータファイルに変換する。アップロード可能なファイルサイズの上限は 300MB であるが、可能な範囲で小さくする。
 - ・ファイル名は、[高専名・キャンパス名_代表者学生氏名]（「高専」「キャンパス」の文字は除く。）とする。

例) 仙台・名取_仙台太郎.pdf 有明_高専花子.pdf

3.3 エントリー手続き

- ① エントリー&取扱説明書のアップロード
 - ・受付期間: **2022年10月24日(月)~10月31日(月)17:00**
 - ・応募方法: デザコン 2022 in 有明公式ホームページのプレデザコン部門の「エントリー」から行う。PDF 化した「取扱説明書」をアップロードすること。
 - ・受領確認: エントリーの受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスへ内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスは入力ミスがないように十分確認すること。
- ② 作品の提出
 - ・受付期間: **2022年10月24日(月)~10月31日(月)17:00 必着(エントリー期間と同じ)**
 - ・本募集要項(p.6)にある送付状を梱包物の外側の分かりやすい場所に貼り付け、作品を下記の提出先に送付する。
 - ・作品の受領確認については、プレデザコン部門担当事務局より、各高専の学生課宛に e-mail で連絡する。

提出先: 〒836-8585 福岡県大牟田市東萩尾町 150
 有明工業高等専門学校 第 19 回全国高等専門学校デザインコンペティション
 プレデザコン部門担当事務局
 e-mail:dc-22pre@ga.ariake-nct.ac.jp

- ③ 参加費は、徴収しない。

4. 応募資格

「共通事項」に記載する。

5. 審査方法

プレデザコン部門 AM フィールド担当者が、「プレデザコン部門 AM デザインフィールド競技要項」に則って、自由落下試験を行い、落下時の衝撃力をロードセルで測定し、測定値によって順位付けを行う。

6. 表彰

「共通事項」に記載する。

7. 著作権等

「共通事項」に記載する。

8. 付記

「共通事項」に記載する。

プレデザコン部門 AM フィールド作品の送付について

AM フィールドの作品を送付する場合、以下に従って送付して下さい。

- ・配送業者：指定はありません。
- ・時間期間：2022年10月24日(月)～10月31日(月)17:00 必着
- ・提出先：〒836-8585 福岡県大牟田市東萩尾町 150
有明工業高等専門学校 第19回全国高等専門学校デザインコンペティション
プレデザコン部門担当事務局
- ・注 意：着払いでの送付はご遠慮願います。
輸送時の損傷について、大会事務局は一切責任を持ちません。

送付にあたっては、以下に記入の上、梱包物の外側のわかりやすい場所に貼付して下さい。

----- キリトリ -----

デザコン 2022 in 有明

部 門 名 : プレデザコン<AM>

学 校 名 : 高 専

(キャンパス名 :)

共通事項

1. 質疑応答

募集要項の内容(課題内容、設計条件)に関する質疑応答は行わない。日程および提出方法などの事務的な質疑については、下記の方法で質問を受け付ける。

- ① 受付期間:2022年4月26日(火)～5月10日(火)17:00
- ② 質問方法:デザコン 2022 in 有明公式ホームページのプレデザコン部門の「質疑受付」から行う(Google アカウント必要)。
- ③ 回答公開:5月下旬から6月上旬にかけて、デザコン 2022 in 有明公式ホームページのプレデザコン部門の「質疑応答」にて回答内容を公開する。

2. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科3年生以下を対象とする。
- (2) チームによる応募は、最大4名までとする。
- (3) チームメンバーの所属する学科は問わない。
- (4) 同一フィールドで同一人物もしくは同一チームが応募できるのは1作品とします。
- (5) 同一高専(キャンパス)が応募できる上限数は、合計12作品まで、同一部門では6作品までとする。

3. 表彰

各フィールドにおいて、以下の3つの賞が授与される。

- | | |
|---|----|
| (1) 最優秀賞(国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)理事長賞(予定))…… | 1点 |
| (2) 優秀賞(一般社団法人全国高等専門学校連合会会長賞(予定))…… | 1点 |
| (3) 特別賞(全国高等専門学校デザインコンペティション実行委員会会長賞(予定)) | 1点 |

4. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に帰属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載または Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには、応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。

5. 付記

- (1) 応募作品は他のコンテスト、コンペティションに応募していないものとする。
- (2) 募集要項に違反した場合は失格となる場合がある。
- (3) 応募作品は原則として返却しない。
- (4) プレデザコン部門の参加者の、本選への参加は自由とする。
- (5) プレデザコン部門の表彰式は行わず、後日、受賞者に賞状・副賞を発送する。
- (6) 応募作品の取り扱いにおいて、主催者は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。

第19回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2022 in 有明「NEW!!」

プレデザコン部門 AM デザインフィールド
競技要項

テーマ：衝撃を吸収せよ！

分銅をのせた作品を自由落下させ、水平面に着いたときの衝撃力を小さくなるような設計を行ってください。作品は3Dプリンターで造形したものとします。

目次

1 競技内容.....	9
2 競技装置.....	10
3 競技方法.....	16

2022年 4月1日版

全国高専デザコン プレデザコン部門

1. 競技内容

(1) 概要

3D プリンターで造形した作品に 200g の分銅をのせ(使用分銅および”のせる“の定義は、「2.競技装置(2)」による)、高さ 1m(ロードセル上に設置した球面座に接触するまでの距離)から自由落下させ、ロードセルで測定される最大値(衝撃力のピーク値)の小さいものを上位とする。なお、競技(測定回数)は1作品1回とする。

(2) 審査方法

- ① 落下による力をロードセルで測定し、測定された最大値(ピーク値)を点数とし、この点数の小さい方を上位とする。
- ② 次の場合は、記録なしとする。
 - ・ ロードセルの測定範囲を超える。
 - ・ 分銅が作品から離れる。
 - ・ 作品が大きく壊れる。
 - ・ ロードセル上の球面座に作品が触れない。
 - ・ ロードセル上の球面座以外の競技装置に作品が接触する。
 - ・ 作品の大きさが条件を満たしていない。
 - ・ 作品が落下する際にスライド金物から離れる(落下後は作品がスライド金物から離れてもよい)。
 - ・ 自由落下を妨げる構造となっている。例えば、作品を支えるガイドの一方に荷重をかけ、ガイドとの摩擦により落下速度を減少させる構造など。
- ③ ロードセルの測定範囲の最小値を下回った場合は、最上位の記録とする。
- ④ ロードセルの測定値が同じであった場合、作品の質量の大きいものを上位とする。
- ⑤ ④までの審査を行っても順位がつかない場合は、同じ順位とする。
- ⑥ 作品が、本規定に満足していない場合、記録なしとし、競技を行わない。

(3) 設計および製作条件

- ① 大きさは 100×100×100mm の範囲であること。ただし、この範囲に作品と競技装置であるスライド金物(寸法と質量については、「2.競技装置(5)」による)と接続する部分は含まない。
- ② 200g の分銅(ステンレス鋼製円筒型分銅 OIML 型 寸法は、「2.競技装置(2)」による)が収納でき、かつ落下した後も作品から分離しないこと。ただし、分銅は会場で用意したものをを用いるため、分銅が収納できない場合、記録なしとする。なお、分銅は作品中央(球面座中心軸上)に位置するよう収納すること。
- ③ 3D プリンターで造形したものに限るが、その造形方法、造形機種、材料(樹種など)、色は自由とする。ただし、3D プリンターで造形したもののみを部品として用いること(金属製などの既製のビス、鋳造した金属などは不可)ができる。
- ④ 造形は一体ではなく、造形した部品を組立てたものでも良い。また、造形後の加工(切削、研磨など)も認める。なお、組立ての際には接着剤(種類は問わない)を用いてよいが、接着にのみ用いて緩衝材のような用途では用いないこと。
- ⑤ ③の規定の通り、造形に用いる材料の種別は自由であり、部品ごとに造形材料を変えて良い。
- ⑥ 落下後も大きな破損はないことを前提とするが、局部的な破壊・破損を伴う変形、設計で想定した形状の変化は認める。
- ⑦ 作品とロードセル上の球面座の接触点は、作品の下部中心の直径 10mm 程度の面(曲面は不可)とする。なお、作品と接触する球面座の表面は、直径 38mm の円形平面(「2.競技装置(4)」参照)である。
- ⑧ スライド金物との接続は、M8ボルトで接続するため、作品側には直径 10mm の穴をあけておくこと。穴の位置については、「2.競技装置(5)～(7)」を参照すること。
- ⑨ スライド金物との接続高さ(作品の上部とか、下部とか、中央部とか)の規定はない。落下は落下防止板で作品を支えるため、接続する高さで落下高さは変わらない。
- ⑩ 作品は偏心のないように(球面座中心軸と作品の重心が一致するように)製作すること。

2. 競技装置

(1) 装置の概要

競技装置の全体を図 1、2 に示す。支柱が 4 本あり、内 2 本をガイドとし、分銅を内包する作品を鉛直に落下させる。高さは約 1.5m である。作品は、競技前には落下防止板に支えられており、競技開始時にはフックが外れる。落下高さは落下防止板の上端から、土台に固定されたロードセルの先端までの高さとする。支柱はステンレス鋼、その他はスチール鋼を使用している。土台下部には、鉛直度の調整ができるようになっている。

(株)東京測器研究所 圧縮型ロードセル(CLA-5kNA)は、台座(FB-2-44)を用いて土台に固定している。荷重の表示には、同社製デジタル指示器(TD-96A)を用いる。

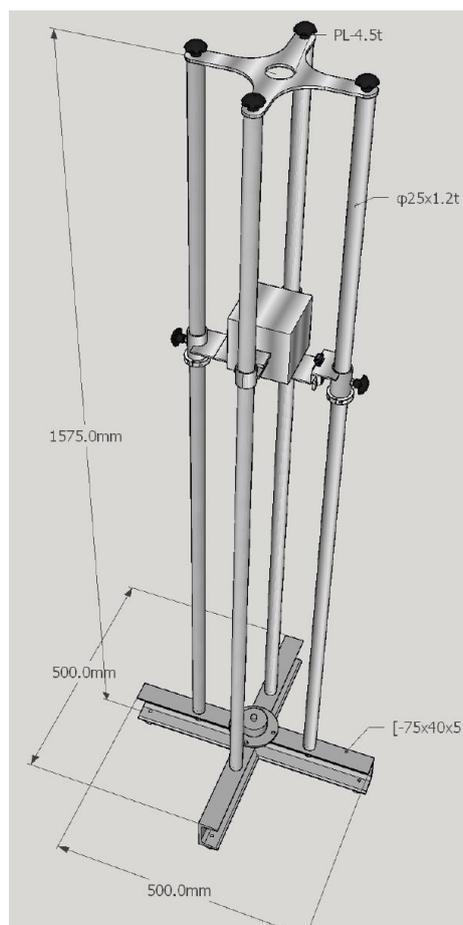


図 1 全体(その 1)

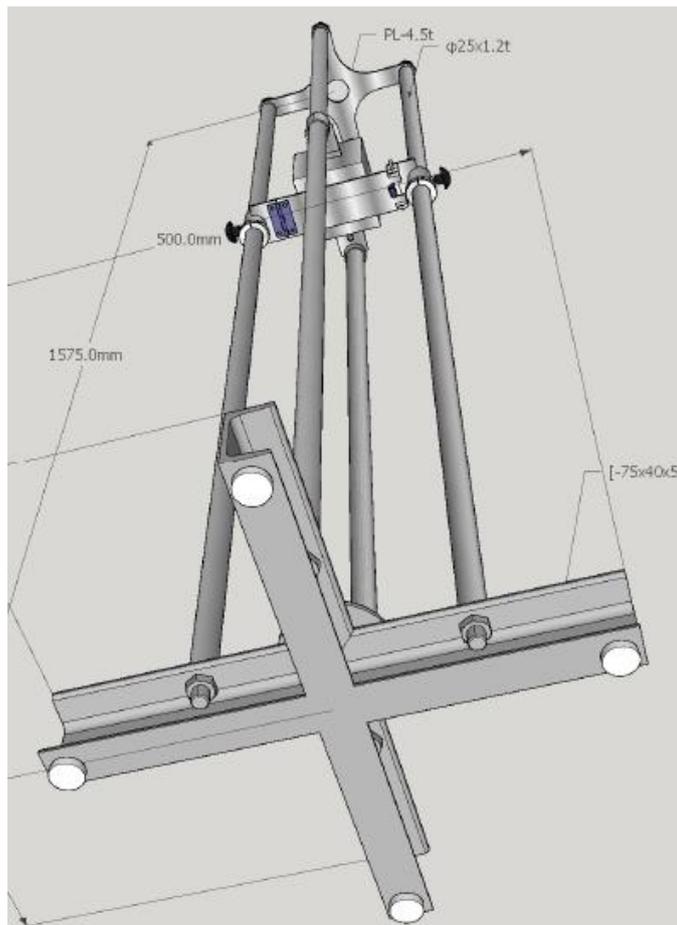


図 2 全体(その 2)

(2) 分銅

競技に用いる分銅は、(株)村上衡器製作所、OIML 型標準分銅「円筒型」、200g、F2 級とする。図 3 に寸法(メーカーHP より)を示す。分銅を作品内にのせる必要があるが、落下後も作品内に存在している必要がある。また、分銅は作品中央(球面座中心軸上)に位置するように収納すること。

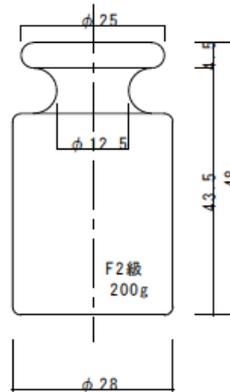


図 3 (株)村上衡器製作所、OIML 型標準分銅 円筒型、200g、F2 級

(3) ロードセル

ロードセルは、(株)東京測器研究所、圧縮型ロードセル(CLA-5kNA)を用いる。図4に寸法を示す。

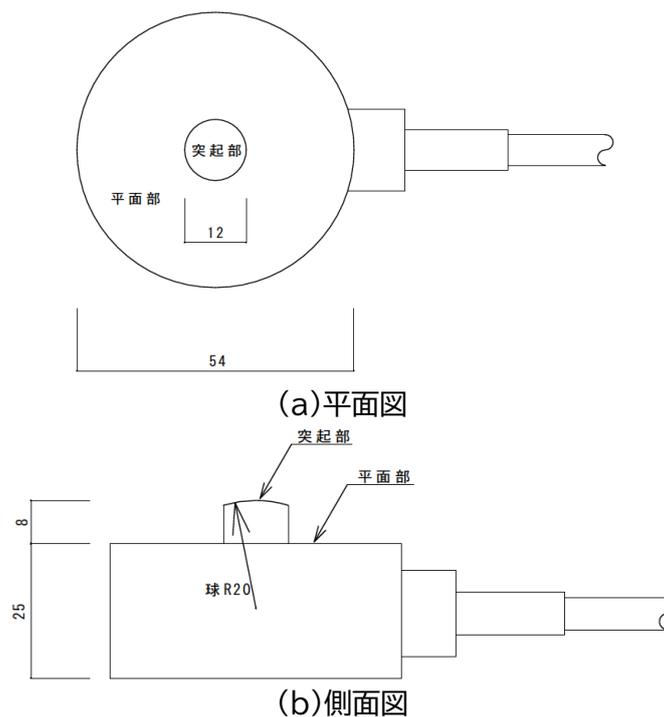
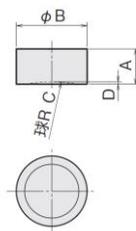


図 4 (株)東京測器研究所、圧縮型ロードセル(CLA-5kNA)

(4) 球面座

ロードセルの突起部上に、(株)東京測器研究所純正の球面座(FA-20)を設置する。図 5 に寸法(メーカーカタログより)を示す。球面座の上面は直径 38mm の円形の平面である。この球面座に作品が衝突した後、球面座以外の競技装置に作品が触れてはならない。この判断は、競技後に 5mm 以上の隙間が確認できることとする。

球面座 FA



型名	A	B	C	D	質量 (kg)
FA-20	15	38	20	2	0.15
FA-60	25	58	60	1	0.5
FA-80	25	58	80	1	0.5
FA-100	30	58	100	1.5	0.6
FA-140	40	78	140	3.5	1.5
FA-160	40	98	160	4	2.5

圧縮型荷重計の頭部に取り付け、圧縮荷重を確実に伝えるために使用します。

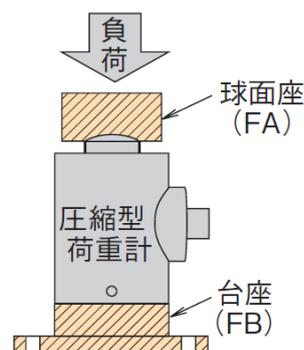


図 5 球面座

図 6 圧縮型ロードセル上に設置した球面座の模式図
(メーカーカタログより)

(5) スライド金物

スライド金物の寸法を図 7 に示す。スライド金物と作品は、M8(スチール)のボルトセットで固定する(図 8、9 参照)。スライド金物側の穴はU字形のルーズホールとなっている。作品側の穴は直径 10mm とし、ルーズホールとしてはならない。スライド金物と支柱には隙間(支柱外径 24mm、スライド金物内径 28mm)があることも考慮すること。なお、作品が競技後スライド金物から離れたり、土台に接触したりすることのないように気をつけること。

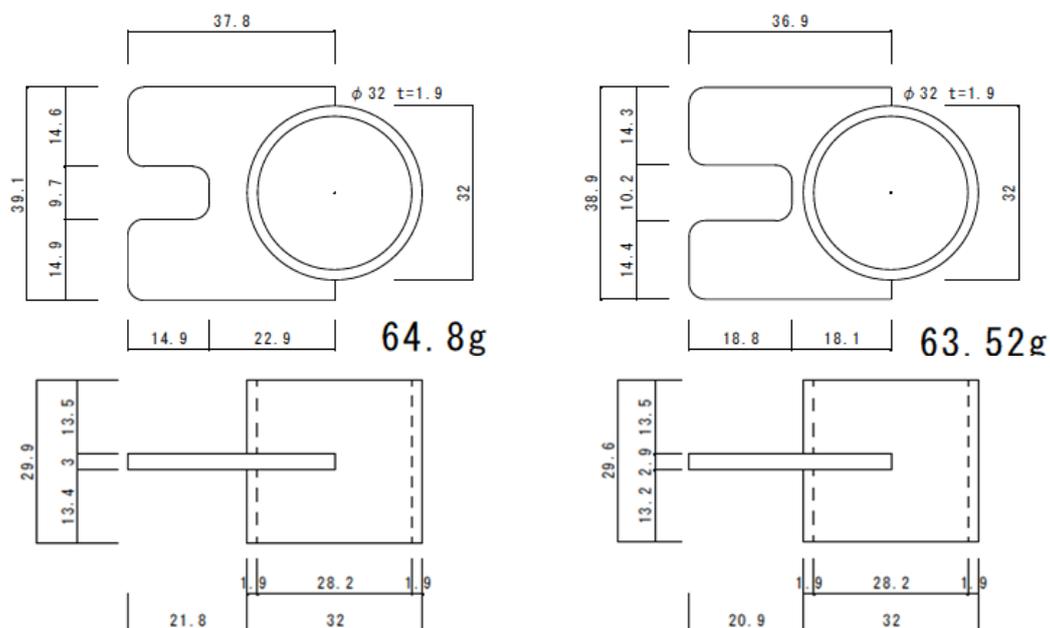


図 7 スライド金物

(6) 落下防止板

落下防止板を図 8、9 に示す。落下防止板は、フックで吊られており、反対側にヒンジがある。フックが外れると落下防止板は下方に回転し、作品はスライド金物をガイドに自由落下する。

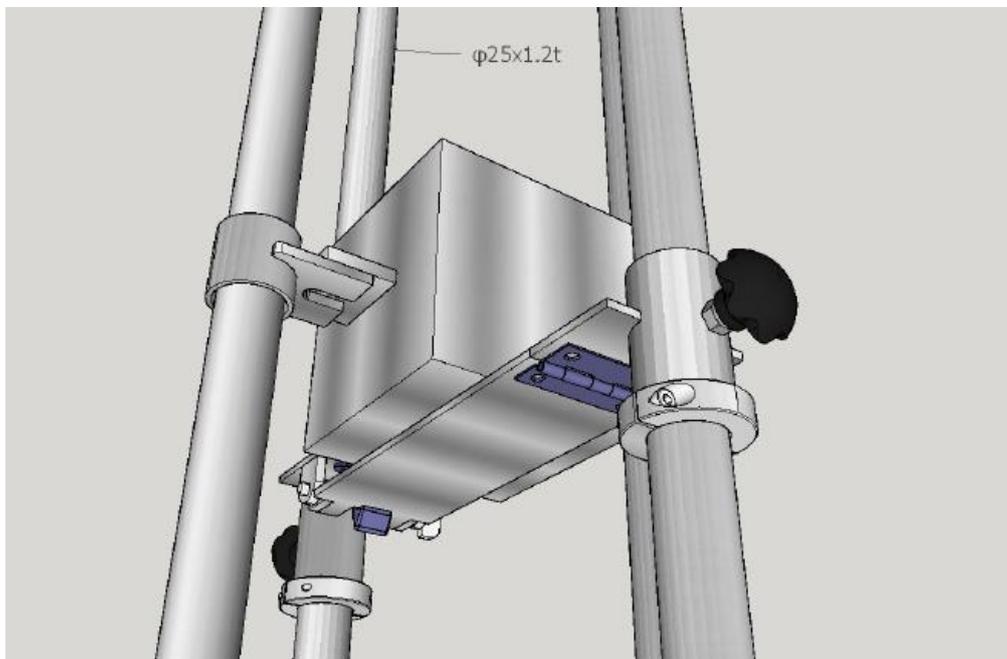


図 8 落下防止板 ヒンジ側

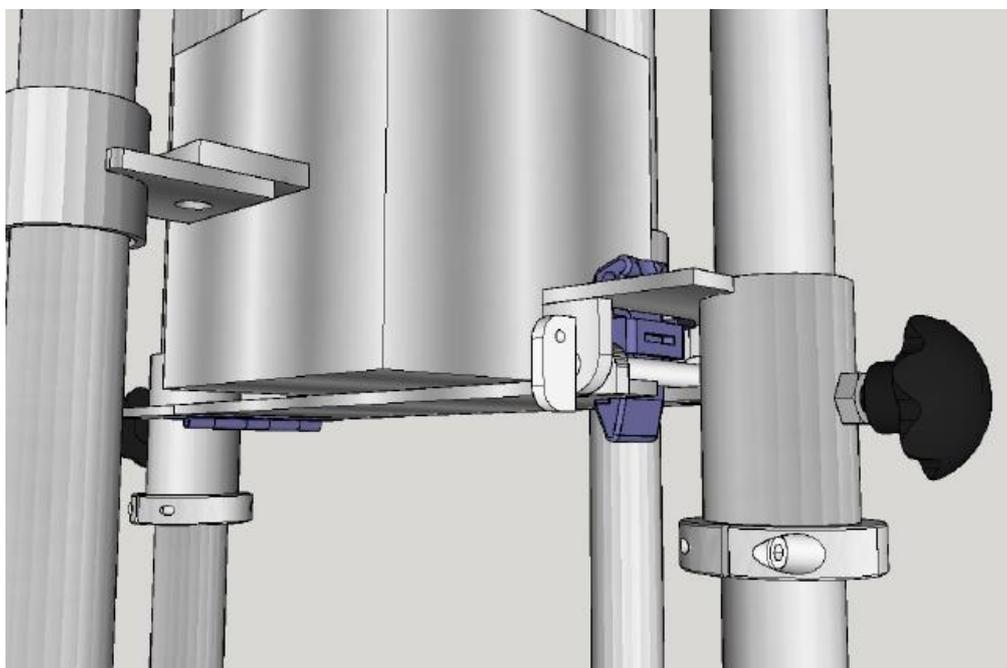


図 9 落下防止板 フック側

(7) 支柱の間隔

4本の支柱の間隔を図10に示す。作品を支えるスライド金物が挿入されている支柱(図10の上下の支柱)の間隔は約200mmである。なお、左右の支柱(間隔約240mm)には落下防止板が固定されている。

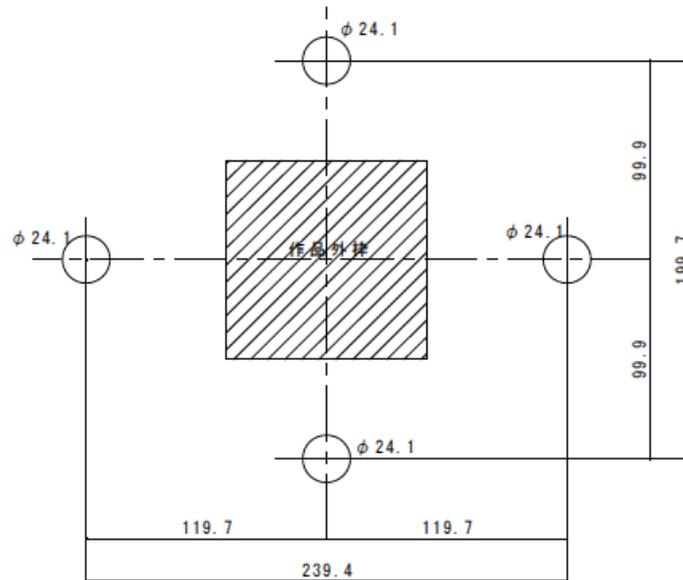


図10 支柱の間隔

(8) 競技装置の写真

写真1から写真8に競技装置の概要を示す。



写真1 競技装置全体(その1)



写真2 競技装置全体(その2)



写真 3 落下防止板フック側

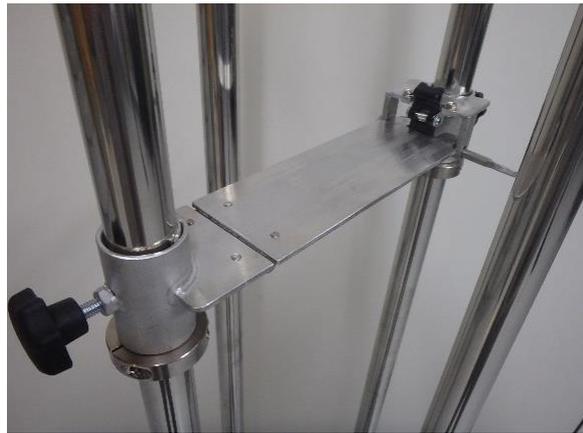


写真 4 落下防止板ヒンジ側



写真 5 落下防止板 下方回転



写真 6 落下防止板 下方回転



写真 7 スライド金物と土台
(ロードセル、取り付け前)

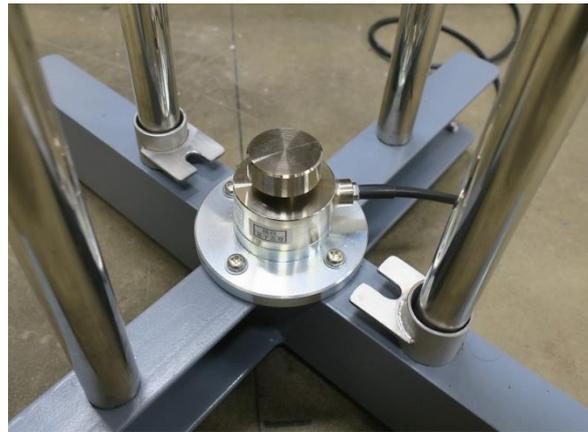


写真 8 スライド金物と土台
(ロードセル、球面座、台座、取り付け後)

3 競技方法

(1) 競技を行う上での注意事項

- ① 競技の準備や測定は、主管校の部門担当者が行う。そのため部門担当者が競技の準備や測定を行う過程で作品が壊れたとしても主管校は一切の責任を負わない。
- ② スライド金物への固定時や作品を持つ際に注意が必要である作品は、取扱説明書に明記すること。また、作品の上下がわかるよう明記すること。ここで、明記とは図などを用い、初めて作品を見る者にもわかるようにすることをいう。
- ③ 作品の質量は部門担当者が競技開始前に計測する。

(2) 測定手順

- ④ 作品に分銅をのせる。
- ⑤ 作品をスライド金物に固定する。
- ⑥ 球面座の中心に作品が接触することを確認する。
- ⑦ 落下防止板の上に作品をのせる。
- ⑧ ロードセル表示値を0にする。
- ⑨ 落下安全棒を抜く。
- ⑩ フックを外し、落下させる。
- ⑪ 落下後の状況を確認し、規定に示す破損として認められるか確認する。
- ⑫ 衝撃力のピーク値を記録する。
- ⑬ 測定回数は1回とする。

(3) 試験後の作品

競技後の作品は原則返送しない。

プレデザコン部門

☆質疑に対する回答

No.	質問校	質問	回答
1	仙台高専 名取キャンパス	プレデザコン部門に出品する学生が、他の部門(構造・空間・AM)にもエントリーし出品することは可能でしょうか？	可能です。
2	神戸市立高専	プレデザコン AM 部門で、既存の衝撃吸収の技術を使用したり、応用する事は可能ですか？それとも今までに無かった新しい物を考えなければならぬのですか？	既存の衝撃吸収技術を使用することは問題ありません。 但し、3Dプリンターで使用できる材料以外での衝撃吸収材料の使用は不可です。 あくまでも落下させる作品は、3Dプリンターで出力した作者のオリジナル作品であることが条件です。

空間デザインフィールド

作品 番号	学校名	作品名・氏名・学年
1	サレジオ高専	Broken Palace ○相葉 悠海(1年)
2	サレジオ高専	趣き ○中田 侑吾(1年) 小野 魁斗(1年)
3	仙台高専・名取キ ャンパス	高田松原津波復興祈念公園 ○齋藤 花楠子(2年)
4	仙台高専・名取キ ャンパス	大内宿ー未来へつなぐー ○桃井 亜里紗(3年)
5	仙台高専・名取キ ャンパス	銀山温泉 ○佐藤 瑞姫(1年)
6	仙台高専・名取キ ャンパス	軍艦島 ○松森 英香(1年)
7	徳山高専	大阪中之島美術館～人を呼び込む Black Cube～ ○小野嶋 琉璃(2年)
8	秋田高専	恒久平和 ○田口 真治(3年)
9	岐阜高専	SHIBUYA 109 ○亀谷 幸輝(3年)
10	長野高専	諏訪大社～伝統をこの先へ伝える～ ○野明 鈴穂(1年)
11	長野高専	バラ香る一本木公園 ○玉井 志乃(1年)
13	都城高専	空気・光・音 都城市民会館 ○郭 龍佑(1年)
14	徳山高専	川棚の社 ○背戸 雫(1年)
15	徳山高専	大切なあなたへー長門湯本温泉～ ○神田 陽菜(1年)
16	呉高専	回遊 ○工藤 周悟(2年)
17	近畿大学高専	やなせ宿 ○時田 茉莉亜(3年)

創造デザインフィールド

作品番号	学校名	作品名・氏名・学年
1.	サレジオ高専	FROM NOW ON ○水津 梢英(1年) 松本 昊士(1年) 大類 咲希(1年)
2.	明石高専	赤レンガのとびら ○増本 唯衣(3年) 川口 杜明(3年)
3.	明石高専	舞鶴を舞う ○須原 千尋(2年)
4.	都立産業技術高専・品川キャンパス	Flapping crane ○古川 愛椛(2年)
5.	仙台高専・名取キャンパス	円—まどか— ○大友 歩(3年)
6.	仙台高専・名取キャンパス	充電 100% ○本田 佳奈絵(2年)
7.	サレジオ高専	Dancing crane in the sun ○岩崎 七海(2年) 荒木 寅乃介(1年)
8.	サレジオ高専	MAIZURU'S WARSHIP CURRY ○濱中 昴(1年) 鈴木 心寧(1年)
9.	サレジオ高専	Linking Nature and History ○望月 里江子(2年) 真鍋 歩希(1年)
10.	サレジオ高専	鶴汀晝渚 ○坂東 礼実(2年) 高口 菜乃(1年)
11.	サレジオ高専	未来に生きる。舞鶴 ○土屋 翔太郎(2年) 田後 朋輝(1年)
12.	舞鶴高専	NAVY COLLAR ○平中 太朗(2年)
13.	舞鶴高専	sea route ○福井 愛美(1年)
14.	舞鶴高専	Go ahead ○川瀬 絢香(1年)
15.	舞鶴高専	海の京都 My 鶴 ○本庄 由葵(1年)
16.	舞鶴高専	未来につなげ！ 舞鶴から。 ○石崎 裕生(1年)
17.	松江高専	静動 ○阿瀬川 獅友(2年) 新崎 真央(2年) 加藤 勇斗(2年)
18.	松江高専	舞鶴とこの先へ！ ○岡 蓮水(1年) 小林 葵(1年) 池袋 蒼空(1年)

19.	明石高専	舞って影鶴 ○長手 美濤(3年) 首浦 胡桃(3年) 島 知伽(3年)
20.	明石高専	舞い結ぶ ○上田 清加(2年) 瀧山 彩子(2年) 吉本 瑚春(2年)
21.	岐阜高専	seaside town ○亀谷 幸輝(3年)
22.	長岡高専	かにちゃん♡ ○小野 真由(1年) 田中 理子(1年)
23.	長野高専	衛～まもり～ ○安田 茉央(2年)
24.	岐阜高専	舞鶴の軍艦 ○原川 洋佑(3年)

AM デザインフィールド

作品 番号	学校名	作品名・氏名・学年
1.	鈴鹿高専	パルテノン ○嶋 遥太(3年)
2.	鶴岡高専	ぱらくつしょん ○佐藤 心吾(1年)
3.	鈴鹿高専	RICEBALL～気になる中身は…？実は分銅！～ ○尾上 奈桜(3年) 中山 ことひ(3年)
4.	鶴岡高専	跳ねろべえ ○秋浜 正太郎(3年)
5.	北九州高専	三日天下 ○加治木 諒馬(2年) 岩男 凌介(2年)
6.	津山高専	半球 ○インタラスツ ニツチャカーン(3年)
7.	津山高専	SUTON ○佐古 悠真(3年)
8.	津山高専	波 ○リム イアンゾング(3年)
9.	津山高専	パルテノン型衝撃吸収器 ○高見 瑛(3年)
10.	鶴岡高専	AirPumpCushion(落下傘仕様) ○国井 優真(3年)
11.	鶴岡高専	太巻き ○奥山 流唯(3年) 小野寺 泰河(3年)
12.	神戸市立高専	Support material hopper ○森口 輝一(3年) 坂本 晴臣(2年) 小林 歩乃果(3年)
13.	鶴岡高専	Y.K.D.R.M. ○古城 駈(3年)
14.	鶴岡高専	海月 ○保科 来海(3年)

デザコン2022 in 有明 結果一覧

プレデザコン部門		
賞名	高専名	作品名
最優秀賞 (空間デザイン)	呉高専	回遊
最優秀賞 (創造デザイン)	サレジオ高専	鶴汀晃渚
最優秀賞 (AMデザイン)	鶴岡高専	海月
優秀賞 (空間デザイン)	秋田高専	恒久平和
優秀賞 (創造デザイン)	明石高専	舞って影鶴
優秀賞 (AMデザイン)	鶴岡高専	跳ねろべえ
特別賞 (空間デザイン)	仙台高専・名取キャンパス	銀山温泉
特別賞 (創造デザイン)	サレジオ高専	FROM NOW ON
特別賞 (AMデザイン)	鶴岡高専	ぱらくっしょん